

2027^{年度}

東京音楽大学
入学試験要項

＞ 一般選抜
(A日程・B日程)

編入学・転入学試験 ＜

2027年度 入学試験要項

- I 募集要項
- II 一般選抜（A 日程）
- III 一般選抜（B 日程）
- IV 入学試験科目

 編入学・転入学試験

目 次

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)	4
-----------------------------	---

I 募集要項

1 募集専攻・募集人員	7
2 出願資格	7
受験上・修学上の配慮を希望する出願者について	8
個別の入学資格審査について	8
3 選考方法	8
4 日程一覧	9
5 出願手続	10
卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項	15
6 入学検定料	16
7 合格発表	16
8 入学手続	17
9 学費その他の納入金	18
10 奨学金制度・経済的支援制度	19
11 外国学生(外国籍)の方へ:在留資格「留学」の取得について	19
12 学生寮(女子のみ)	20

II 一般選抜(A日程)

1 専攻別試験科目・配点	22
2 併願について	23
3 入学試験	25

III 一般選抜(B日程)

1 専攻別試験科目・配点	28
2 併願について	29
3 入学試験	30

IV 入学試験科目

1. 声 楽 専 攻

声楽芸術

○入学試験科目	32
◇課題曲	33

2. 器 楽 専 攻

1. 鍵盤楽器

○入学試験科目	34
◇課題曲	
■ピアノ	35
■ピアノ演奏家コース	35
■ピアノ・創作コース	36
■チェンバロ	36
■オルガン	37

2. 弦・管・打楽器

○入学試験科目	38
◇課題曲	
弦楽器	
■ヴァイオリン	39
■ヴィオラ	40
■チェロ	41
■コントラバス	42
■ハープ	42
■クラシックギター	42
木管楽器	
■フルート	43
■オーボエ	43
■クラリネット	44
■ファゴット	44
■サクソフォーン	44
金管楽器	
■ホルン	45
■トランペット	45
■トロンボーン	45
■チューバ	46
■ユーフォニアム	46
打楽器	
■ティンパニ	47
■小太鼓	47
■マリンバ	47

3. 作曲指揮専攻

1. 作曲「芸術音楽コース」
○入学試験科目 48
2. 作曲「ミュージック・メディアコース」
○入学試験科目 50
3. 指揮
○入学試験科目 52

4. 音楽文化教育専攻

- 入学試験科目 54

5. ミュージック・リベラルアーツ専攻

- 入学試験科目 55

6. 吹奏楽アカデミー専攻

- 入学試験科目 57

7. ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

- 入学試験科目 63

入学者選抜試験における不正行為について 64

編入学・転入学試験

- 1 編入学・転入学試験 募集専攻・募集人員 66
- 2 出願資格 66
- 3 他大学・短期大学単位認定範囲 67
- 4 編入学者・転入学者卒業要件 67
- 5 受験上・修学上の配慮を希望する志願者について 67
- 6 日程一覧 67
- 7 出願手続 68
- 8 編入学・転入学検定料 71
- 9 編入学・転入学試験 71
- 10 合格発表 72
- 11 編入学・転入学手続 72
- 12 学費その他の納入金 73
- 13 専攻別試験科目・配点 74

専攻別科目記入票 記入方法 76

個人情報の取り扱いについて

- ①本学は、志願者の出願書類に記載された個人情報および入学試験の成績を入学試験業務に利用します。
なおこれらの個人情報は個人情報保護法に則り万全の体制で管理します。
- ②本学は、上記の個人情報を大学入学者選抜および大学教育の改善のための調査・研究や学術研究の資料としても利用します。調査・研究結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。
- ③本学は、願書記載事項のコンピュータ登録業務、受験票、合格通知書、入学手続書類等の発送の業務を、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者へ委託する場合があります。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

東京音楽大学では、入学者が本学において実りある学びを円滑に行えるように、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を定めています。これは、本学を受験する皆さんに、入学前に身に付けておいていただきたい能力や姿勢を示す基本方針です。本学の入学試験や選抜方法には、アドミッション・ポリシーが反映されています。

○大学において専門的に音楽を学ぶにあたり、楽譜を読む力、音を聴く力、表現の基礎となるテクニック、様式を捉える力、楽典の知識が、一定のレベルに達していることが重要です。

○音楽の学習には外国語も必要です。

○専攻によっては、ピアノ演奏や新曲視唱、新曲視奏の基礎的な能力も必要です。

各専攻のアドミッション・ポリシーは次の通りです。

声楽専攻

●声楽芸術

音楽～歌～を愛し、演奏家、教育者などを目指して学ぶための資質を有し、熱意を持って努力し続けることのできる人材を求めます。また、国際的にも活躍できる実力を持った音楽家の育成を目指すという観点から、その学習のためのより高い資質、より強い意欲が必要です。声を楽器として創り上げるために、基礎的な歌唱力、語学力が必要です。また、周囲との協調性や社会性も身に付け、豊かな人間性を育むために、広い視野を持って学ぶ姿勢が望まれます。

器楽専攻

●ピアノ

ピアノ音楽の学習を通して豊かな人間性、社会性を育むために、ピアノに限定することなく音楽に関して幅広く関心を持ち、外国語を始めとする教養科目にも勉学意欲のある人材を求めます。ピアノ演奏の系統的な学習を円滑に行うために、基礎的なピアノ演奏技術と演奏スタイルを習得していることが必要です。

●ピアノ演奏家コース

プロフェッショナルな音楽家として社会で活動できるよう、ピアノに限定することなく音楽に関して幅広い体験を積み、国内外を問わず活動の場を拡げていく意欲のある人材を求めます。器楽専攻（ピアノ）よりも高度なピアノ演奏能力を目指すために、一定水準以上のピアノ演奏技術と演奏スタイルを習得していることが必要です。

●ピアノ・創作コース

ピアノを中心としながら、創作、即興、伴奏付けなど音楽活動を幅広く行う意欲のある人材を求めます。器楽専攻（ピアノ）のアドミッション・ポリシーに加え、自作曲の創作経験が必要です。

●チェンバロ

19世紀音楽とは異なる音楽的価値やそれに応じた解釈力を学ぶことが要請されるため、音楽理論や楽器の構造への関心と歴史的な視野を持って意欲ある学びのできる人材を求めます。基礎的なチェンバロ演奏技術を習得していることが必要です。

●オルガン

オルガン奏法を多面的に学ぶために、演奏だけではなく、楽器の構造や歴史、音楽理論なども積極的に学ぶ意欲のある人材を求めます。基礎的なオルガン演奏技術を習得していることが必要です。

●弦楽器

弦楽器独特の美しく豊かな響きを追求し、様々な音楽分野での活躍を希望する人を求めます。各楽器において、基礎的な演奏技術と表現力を有していることが必要です。

●管打楽器

管楽器と打楽器において、高度な技術と豊かな表現力の獲得を目指し、様々な音楽分野での活躍を希望する人を求めます。各楽器において、基礎的な演奏技術と表現力を有していることが必要です。

作曲指揮専攻

●作曲「芸術音楽コース」

様々な芸術に対して興味を持ち、将来的に個性ある発信ができる人材を求めます。和声学の知識、及び楽曲制作のための技術と様式感を備えていることが必要です。

●作曲「ミュージック・メディアコース」

ポピュラー音楽を始め、様々なジャンルの音楽について興味を持ち、かつ音楽に打ち込む真剣な姿勢や熱意を備えている人材を求めます。コードネームの理解と伴奏付けの能力、基本的な和声の知識を持ち、自作曲のデモ演奏または基本的なデモ音源制作ができることが必要不可欠です。

また、今後コンポーザー、アレンジャーとして、演奏やパフォーマンスといった音楽に関わる部分に興味を持つのはもちろんのこと、現在音楽を取り巻くあらゆるツールに関しても、幅広い興味を持ち、積極的に自身の活動に生かすことのできる意欲を持つ人材を求めています。

●指揮

指揮者としての将来像を明確に描き、リーダーとして活躍できるように努力する覚悟を持っている人材を求めます。そのために、高いレベルの音楽基礎能力と、コミュニケーション能力が必要です。

音楽文化教育専攻

音楽文化に関心を持ち、その研究と実践を通して社会に貢献しようとする以下のような学生を受け入れます。

- 1 多様な音楽文化に幅広い関心を持ち、実践活動に参加してきた者。
- 2 音楽教育及び音楽文化を学ぶ基礎となる音楽知識や技術を、高等学校までの音楽の授業及び課外活動等を通して身につけた者。
- 3 論理的な思考ができ、自分の考えを文章や口頭で表現できる者。

ミュージック・リベラルアーツ専攻

音楽を愛し、音楽を専門分野として修得する意欲をもつとともに、高等学校までの基礎的な英語力があり、人や社会、歴史等に幅広く関心をもち、主体性をもって学ぶ意欲のある学生を歓迎します。

吹奏楽アカデミー専攻

吹奏楽を愛し、より深い知識習得の意欲があり、熱意を持って向き合い、他者との関わりを大事にし、社会へ発信していこうという意欲のある人材を求めます。何らかの吹奏楽で用いられる楽器の基礎的な演奏技術を習得していることが必要です。

ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

ミュージックビジネス・テクノロジー専攻では、音楽とICTとを融合し、エンターテインメント、およびビジネスの未来を拓く人材を育成します。そのためには「音楽を学ぶ」ことはいくらまでもなく、「音楽で学ぶ」ことによって「学び」の可能性を自ら探求できる学生の入学を期待します。

1. 音楽とコンピュータが好きで好奇心にあふれる者。
2. 音楽とICTを武器に広くビジネス界で貢献したい者。
3. 論理的思考力と創造的発想力の双方を駆使し、自身の考えやアイデアを他者に伝えようとする者。

I 募集要項

- 1 募集専攻・募集人員
- 2 出願資格
- 3 選考方法
- 4 日程一覧
- 5 出願手続
- 6 入学検定料
- 7 合格発表
- 8 入学手続
- 9 学費その他の納入金
- 10 奨学金制度・経済的支援制度
- 11 外国学生(外国籍)の方へ:在留資格「留学」の取得について
- 12 学生寮(女子のみ)

1 募集専攻・募集人員

募集専攻	コ ー ス ・ 楽 器	募集人員
声 楽 専 攻	●声楽芸術	100名
器 楽 専 攻	●ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン ●ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギター ●フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン ●ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニウム ●打楽器	
作 曲 指 揮 専 攻	●作曲「芸術音楽コース」 ●作曲「ミュージック・メディアコース」 ●指揮	
音 楽 文 化 教 育 専 攻		
ミュージック・リベラルアーツ専攻		
吹奏楽アカデミー専攻		
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻		

※入学定員310名

2 出願資格

以下の1. 2. 3. のいずれかに該当する者

1. 高等学校（特別支援学校の高等部を含む）または中等教育学校を卒業した者および2027年3月卒業見込みの者
2. 高等専門学校の3年次を修了した者および2027年3月修了見込みの者
3. 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者および2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者
 - (1) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者（2027年3月31日修了見込みの者を含む）、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
 - (3) 指定された専修学校の高等課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
 - (4) 旧制学校等を修了した者
 - (5) 外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCE Aレベル・国際Aレベル（いずれも3科目以上でE以上の評価を取得していること）、欧州バカロレア資格を保有する者および2027年3月31日までに保有見込みの者
 - (6) 国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI、NEASC、Cognia）の認定を受けた教育施設12年の課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
 - (7) 高等学校卒業程度認定試験（旧大検）に合格した者および2027年3月31日までに合格見込みの者
 - (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者（「□個別の入学資格審査について」参照）

※上記1. 2. 3. に加え、外国籍を有する者は以下4. 5. に該当していること（「永住者」は除く）。

4. 出願時に日本語能力試験（JLPT）でN2以上に合格している者、または日本留学試験（EJU）「日本語」（読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く）で200点以上を取得している者（ミュージック・リベラルアーツ専攻を除く）

※ミュージック・リベラルアーツ専攻志願者は、出願時に4. の日本語能力の証明書を取得している必要はありませんが、日本の大学での授業や学生生活に十分な日本語能力は必要です。入学時まで、日本語能力試験（JLPT）N2以上、または日本留学試験（EJU）「日本語」（読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く）で200点以上の取得に努めること。

5. 出願時に、日本の大学に入学することが可能な在留資格（「留学」等）を有していない場合、4月入学に必要な在留資格（「留学」）の取得が入学時まで完了せず、日本への渡航が授業開始に間に合わない可能性があること、または4月入学後に在留手続きのため一時帰国が必要となり、欠席となり単位取得に影響する可能性があることをあらかじめ了承のうえで出願する者

※ビザ取得の審査は法務省が行うため、不許可となった場合、大学は一切責任を負いません。出願時に在留資格（「留学」等）を有していない者は、一般選抜ではなく、外国人留学生選抜 春入学（10月実施）または外国人留学生選抜 秋入学（2月、3月実施）の受験を推奨します。

- 編入学・転入学試験の出願資格については該当ページを参照してください。

＜受験上・修学上の配慮を希望する志願者について＞

疾病や障がいなどにより受験時や入学後の修学において特別な配慮が必要な場合、個別の状況に応じて必要かつ合理的な配慮を検討し、適切な支援を行っております。

合理的な配慮を希望される方は、URLもしくはQRコードより内容をご確認の上、申請を期日までに行ってください。

[URL]

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/43807.php>



[期日]

一般選抜（A日程）、編入学・転入学試験 2026年11月30日（月）必着	一般選抜（B日程） 2027年1月6日（水）必着
---	-----------------------------

＜個別の入学資格審査について＞ 2 出願資格3.（8）により出願を希望する者

【対 象 者】 高等学校段階を有する外国人学校を卒業した者または卒業見込みの者で、2027年3月31日までに18歳に達する者（2 出願資格1. 2. 3.（1）～（7）に該当する者を除く）
※当該学校の中退学者は、高等学校卒業程度認定試験（大学入学試験検定を含む）に合格すること。

【出願資格審査】 上記の者は、事前に出願資格審査を受け、出願資格を認められた場合に限り出願できるものとする。

【申 請 期 間】 ①一般選抜（A日程・B日程）の志願者で、大学入学共通テストを受験する者
2026年9月4日（金）～9月11日（金）（必着）
②①以外の一般選抜（A日程）志願者
2026年11月20日（金）～11月30日（月）（必着）
③①以外の一般選抜（B日程）志願者
2027年1月6日（水）～1月13日（水）（必着）

【申 請 方 法】 次の書類を揃えて申請すること。なお、提出された書類は一切返却しない。
＜申請書類＞ 1. 出願資格審査申請書（本学所定用紙）
2. 当該学校の教育が12年の課程であることを証明できるもの
3. 当該学校の卒業証明書または卒業見込証明書
4. 当該学校の成績証明書
5. 当該学校の教育内容を証明できるもの（当該学校の卒業要件となる履修科目および単位時間数一覧）

【申 請 先】 〒153-8622 東京都目黒区上目黒1-9-1 東京音楽大学入試課
※「出願資格審査申請書類在中」と朱書きのこと

【審 査 基 準】 申請者の当該学校の教育内容等が、高等学校の教育内容と同等以上と認められ、かつ、申請者が卒業に必要な単位を修得または修得見込であること。

【審 査 結 果】 下記期日までに、メールで通知。
・申請期間①：2026年9月18日（金）
※認定を受けたものは、大学入学共通テスト出願時に「出願資格認定書」を添付して大学入試センターに手続きのこと。
・申請期間②：2026年12月18日（金）
・申請期間③：2027年1月29日（金）

3 選考方法

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、各専攻における試験科目の成績ならびに出願書類の内容を、多面的かつ総合的に評価し、可否を判定します。

※なお、専攻の特性に応じて、特定の試験科目（実技等）の評価を重視する場合があります。

4 日程一覧

- 試験日程・会場の詳細は、試験初日の3日前までにメールで送信する案内を参照してください（p.25およびp.30参照）。試験日時・会場に関する電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。
- なお、期日を過ぎてもメールが届かない場合のみ、迷惑メールフォルダをご確認の上、入試課までご連絡ください。
- 合否は、Web出願サイトにて発表します。電話等による問い合わせには応じません。

	一般選抜（A 日程）	一般選抜（B 日程）
出 願 期 間	1月 6日（水）～18日（月） [消印有効]	2月27日（土）～3月5日（金） [消印有効]
試 験 期 間	2月16日（火）～20日（土）	3月16日（火）～17日（水）
合 格 発 表	2月26日（金）15:00～ 2月28日（日）17:00	3月18日（木）15:00～ 3月20日（土）17:00
入学手続期間	2月27日（土）～3月5日（金） [消印有効]	3月19日（金）～24日（水） [消印有効]

※緊急の連絡は登録のメールアドレスにお知らせします。

※一般選抜（A日程）の作曲指揮専攻（指揮）およびミュージック・リベラルアーツ専攻（指揮）の一部の試験は2月21日（日）に実施する場合があります。

※一般選抜（B日程）の一部の試験は3月15日（月）に実施する場合があります。

＜受験方式＞

※ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コースについては、「対面式」と「非対面式（実技の動画審査）」から選択することが可能です。ただし、実技以外の試験科目は対面式での受験となります。

※ミュージック・リベラルアーツ専攻（ピアノ）、ミュージック・リベラルアーツ専攻（ピアノ演奏家コース）については、「対面式」と「非対面式（実技の動画審査およびオンライン面接）」から選択することが可能です。ただし、実技と面接以外の試験科目は対面式での受験となります。

※動画提出方法の詳細については、ホームページ「入試案内（学部）」に掲載の「演奏実技動画の撮影および提出方法について」を参照してください。

＜学校保健法で出席の停止が求められている感染症に関する注意事項について＞

学校保健安全法で出席停止が定められている感染症（新型コロナウイルス・インフルエンザ・はしか等）にかかり治癒していない場合、その感染症が他の受験者や試験監督者等に広がるおそれがありますので、入学試験を受験することはできません。また、試験当日の検温により発熱があった場合や、通常とは異なる体調不良があり感染症に罹患している可能性がある場合も、受験をご遠慮願います。ただし、病状により医師が伝染の恐れがないと判断した場合は、この限りではありません。

上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、原則として、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日の体調には十分に注意してください。

なお、感染状況等により事情が変わった場合には、改めてホームページ等でお知らせします。

5 出願手続

(1) 出願の流れ

出願方法は Web 出願のみです。

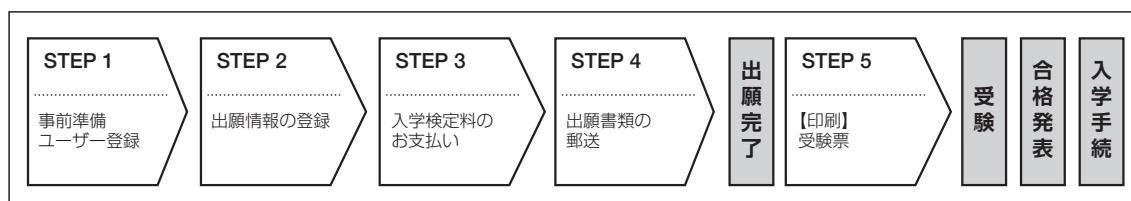
本学ホームページの「入試案内（学部）」にある「出願ガイド」内の「出願情報の登録」より、下図の手順に沿って出願を行ってください。

※出願書類の郵送を終えて出願完了となりますのでご注意ください。

＜「出願ガイド」、「出願書類ダウンロード」などWeb出願に必要なページの掲載場所＞

入試案内（学部）

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/>



STEP1

① Web出願にあたっての事前準備（詳しくは「出願ガイド」参照）

- ☐ インターネットに接続しているパソコン、タブレット、スマートフォンのうち、いずれかの機器
- ☐ メールアドレス

各キャリアのメールアドレスを使用する場合は、ドメイン「@contact.mescius.com」「@sbpayment.jp」「@tokyo-ondai.ac.jp」からのメール受信ができるように設定を行ってください。
入学試験用に新たに作成される場合はフリーメールアドレス（@yahoo.co.jpや@gmail.com等）の取得を推奨します。

- ☐ プリンター*
- ☐ PDF表示・印刷ソフトウェア
- ☐ 本人写真（カラー写真データ）

* 自宅にプリンターがない場合、コンビニエンスストア等のマルチコピー機を使用してください。詳しい使用方法是「出願ガイド」のSTEP1 事前準備 1. プリンター「印刷方法のご確認」を参照してください。

② 「出願ガイド」からユーザー登録を行う

同サイト内の「出願情報の登録」の「Web出願サイトはこちら」からWebサイトにアクセスし、「初めての方はこちら」からユーザー登録を行ってください。

※外国籍の方はパスポート、在留カードあるいは住民票に記載の氏名を姓(Family Name)名(First Name)の順に アルファベット で入力してください(漢字は不可)。ただし、在留カードあるいは住民票の氏名表記が漢字のみの場合は、漢字での入力も可能です。

フリガナについては、通常使用する読みをカタカナで入力してください。

※本学受験講習会で登録をしている方および昨年度以前メールアドレス登録画面で「□来年度もこのメールアドレスを利用する」のチェックを入れた方は再登録不要です。以前登録したメールアドレスとパスワードでログインしてください。

③ 出願書類を確認・準備する

募集要項に記載されている出願に必要な書類を確認・準備してください。

STEP2

「出願ガイド」からWeb出願サイトにログインし、出願登録を行う

募集要項、「出願ガイド」を確認してから、同サイト内の「Web出願サイトはこちら」にアクセスし、STEP1 で登録を行ったメールアドレスとパスワードでログイン後、「出願」から出願登録を行ってください。

(「出願ガイド」：<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/>)

STEP3

入学検定料のお支払い

「コンビニエンスストア」、「クレジットカード」、「Pay-easy」で出願期間中に検定料をお支払いください。

※検定料のほかに支払手数料が必要です。

STEP4

出願書類の印刷・記入および出願書類郵送

①Web出願サイトから志願票・宛名ラベルをダウンロードし、ページの拡大縮小はせずにA4サイズで印刷してください。

②本学ホームページ「入試案内（学部）」の「出願書類ダウンロード」から、受験する入学試験の必要書類を印刷・記入してください。提出前に必ず「出願書類チェックリスト」を使用して、出願書類がすべて揃っているか確認し、他の書類と共に提出してください。

（「出願書類ダウンロード」：<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/examinee/exam>）

③レターパックライトを使用して、表面に①で印刷した宛名ラベルを貼り、出願書類を郵送してください。

レターパックライトはポスト投函できますが、出願期限最終日に郵送する場合は、郵便局の窓口から出すことを推奨します。

郵送をもって出願完了となります。

※海外から日本への郵便到着に不安がある方は、事前に提出書類のPDFをメール添付やファイル送信サービスにて本募集要項最終ページ記載の「問い合わせ先」のメールアドレスに送付することができます。ただし、PDFのメール送付だけでは、出願受付はできませんので必ず出願期間内に郵送してください。

STEP5

受験票の印刷

東京音楽大学から「受験票印刷のお知らせメール」*が届いたら、受験票の記載事項が志願票に入力した内容と一致しているか確認し、メールの案内に従って「受験票」を印刷してください。

試験日程詳細は別途メールにて送信します。内容をご確認の上、試験会場にお越しください。

受験票は、試験当日持参してください。

※メールが届かない場合は、Web出願サイトにログインし「受験票印刷」から印刷してください。

(2) 出願書類一覧

以下の該当する書類を一括して、宛名ラベルを貼付けの上、「レターパックライト」で郵送してください。なお、以下の書類は「A.Web出願サイト」または「B.出願書類ダウンロード」よりダウンロードし印刷してください。

（「出願ガイド」内「Web 出願サイトはこちら」からアクセス）
A.Web出願サイト（ユーザー登録、出願情報の登録、志願票・宛名ラベル印刷）
<https://lsg.mescius.com/tokyo-ondai/App/Account/login>



B. 出願書類ダウンロード

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/examinee/exam>



ダウンロードする出願書類			注意事項
[1]	志願票	前頁AのURLから印刷してください	検定料支払い手続き完了後に印刷してください。 (拡大・縮小せずA4で印刷) ※カラー印刷してください。
[2]	宛名ラベル		日本国内から書類を発送する場合はレターパックに貼り付けてください。 (拡大・縮小せずA4で印刷) ※カラー印刷してください。
[3]	曲目記入票 「専攻実技」	前頁BのURLから一般選抜の様式を印刷してください	志望する専攻の様式より、該当するものを提出してください。 (1) 志望する専攻実技 (2) 第2志望の専攻実技 ※器楽専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース) 志願者は「対面式」「非対面式」の様式より該当するものを提出してください。 ※併願する場合は、第1志望・第2志望の曲目記入票を両方提出してください。 ※ただし、以下の場合は曲目記入票は提出不要です。 ①実技試験の曲目がすべて指定されている以下の専攻(楽器) ・器楽専攻、ミュージック・リベラルアーツ専攻(B) 課題:フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、トロンボーン、テューバ、打楽器(ティンパニ、小太鼓) ②ミュージック・リベラルアーツ専攻を第1志望とし、第2志望を同じ実技で受験する場合は第2志望の曲目記入票は提出不要 ③音楽文化教育専攻を同じ実技で併願する場合は、音楽文化教育専攻の曲目記入票は提出不要
[4]	曲目記入票 「副科実技(ピアノ)」		声楽専攻(声楽芸術)、器楽専攻(オルガン、弦楽器、管打楽器)、作曲指揮専攻(作曲「芸術音楽コース」、指揮)、吹奏楽アカデミー専攻(副科実技(ピアノ) 選択者)は提出してください(第2志望を含む)。
[5]	志望理由書		ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を第2志望で併願する場合は提出してください。
[6]	大学入学共通テスト過年度成績請求票貼付用紙		過年度の大学入学共通テスト成績請求票「私立大学・公私立短期大学用」を所定欄に貼付してください。
[7]	同意書		器楽専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース)「非対面式」受験者のみ提出してください。
[8]	出願書類 チェックリスト		出願書類を郵送する前に各書類が揃っているかチェックし、出願書類と共に提出してください。

[9] 演奏実技動画(「非対面式」志願者のみ)

動画提出期間: A 日程 1月28日(木)～1月30日(土)
(期間内必着) B 日程 3月 9日(火)～3月11日(木)

※提出方法詳細は、ホームページ「入試案内(学部)の「演奏実技動画の撮影および提出方法について」を参照してください。

[10] 調査書(またはそれに代わるもの) 1通

- (1) 出身校において作成のもの。第2志望を受験する場合も1通とします。
- (2) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者、国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア(フランス共和国)、GCE Aレベル、国際Aレベル、欧州バカロレアの各資格取得者は、在学した高等学校等または当該試験等の成績証明書、資格証明書をもって調査書に代えます。なお、日本語もしくは英語の証明書を提出してください。それ以外のものは、大使館・公証処等の公的機関が発行した日本語の翻訳、または翻訳者としての資格を有する翻訳者による翻訳文を原本と一緒に提出してください。発行した公的機関の公印がない翻訳は受け付けません。詳細は、p.15「卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項」を参照のこと。
- (3) 文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者は在学した学校等の成績証明書をもって調査書に代えます。
- (4) 高等学校卒業程度認定試験合格者(大学入学資格検定に合格した者を含む)は、当該試験等の合格成績証明書をもって調査書に代えます。また、在学した高等学校等の成績証明書も添付してください。
- (5) 卒業後、5年以上の経過者または、廃校、被災その他の事情により高校から調査書が発行できない場合があります。この場合、卒業証明書、成績通信簿等を提出してください。高等学校が成績証明書またはそれに代わるものを発行できない場合は、発行できない旨を記載した書類(「破棄証明書」「不発行証明書」等)を提出してください。卒業証明書、成績通信簿等は厳封不要です。

※一般選抜(A日程)受験者が一般選抜(B日程)を受験する場合は、再度調査書(またはそれに代わるもの)を提出してください。

[11] 戸籍抄本(該当者のみ)

改姓等により各種証明書の氏名が出願時の氏名と異なる場合、戸籍抄本を提出してください。

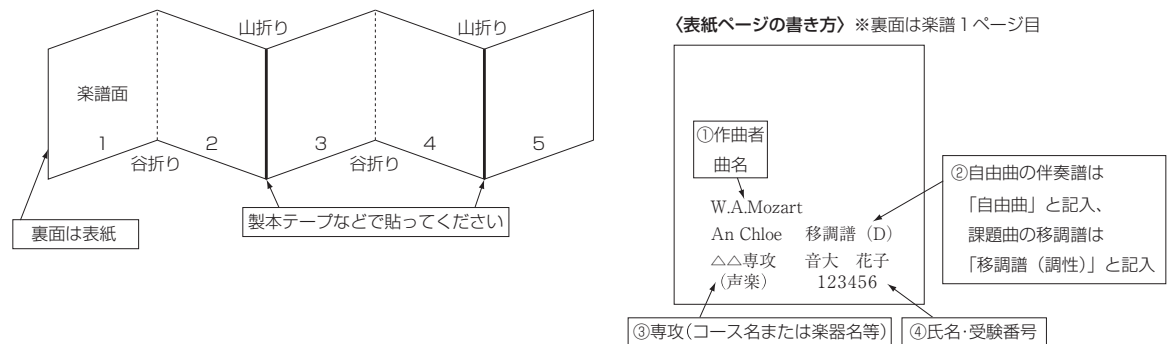
[12] 伴奏用楽譜(以下の①～⑤に該当する志願者のみ)

以下の①～⑤に該当する場合のみ伴奏譜を出願書類と共に提出してください。第2志望も同様です。

- ①声楽専攻(声楽芸術)の自由曲
- ②声楽専攻課題曲表(p.33)の()内に記入してある調以外で受験する場合の移調譜
- ③器楽専攻(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)の自由曲
- ④音楽文化教育専攻(声楽)の自由曲
- ⑤ミュージック・リベラルアーツ専攻のうち、声楽(A)(B) 課題、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの(B) 課題

■提出する伴奏譜について

- ①楽譜は A4 判縦を 1 ページとし、コピーの濃淡等を調整の上、鮮明な楽譜を提出してください。
- ② 1 曲ごとに表紙にあたる白紙ページを設け、表紙ページの右下に①作曲者、曲名、②自由曲伴奏譜、移調譜の区別、③専攻・楽器名等、④氏名、受験番号を記入してください。
- ③ 2 ページ以上になる場合は、アコーディオン状に折って、製本テープ等で貼ってください。
- ④ 課題で指定された省略（前奏、間奏、後奏）を書き込む場合は、赤インクのペン等でわかりやすく記入してください。それ以外の書き込みは不可とします。
- ⑤ 手書きの伴奏譜を作成する場合は、定規等を使用し、黒インクのペン等で正しく丁寧に清書した譜面を提出してください（鉛筆書きは不可）。



[13] 創作曲楽譜（該当者のみ）

器楽専攻（ピアノ・創作コース）、ミュージック・リベラルアーツ専攻（創作）を受験される方は、創作曲楽譜を出願書類と共に提出してください。第2志望も同様です。

■創作曲楽譜について

- ①楽譜は、鮮明な自筆（コピー可）、またはコンピュータ浄書とします。
- ②表紙に曲名、氏名を記入し、簡易に製本してください（ホッチキス止め可）。
- ③譜面各ページの右上に氏名を必ず記入してください。また、ページ番号を表記してください。

[14] 英語資格・検定試験証明書（英語外部試験利用志願者のみ）

大学入学共通テストの「外国語」（専攻によっては「外国語」（英語））に代わるものとして、本学が行う試験（英語）の他、以下のいずれかの資格を利用できます。

出願時に該当資格試験証明書の原本を 1 種類提出することが必要です。取得時期は問いません。ただし、各試験の実施団体が有効期限や公式証明書を再発行できる期限を定めている場合があります。

証明書の原本が手元にない場合は出願時まで取得してください。

評定は、文部科学省が公表したCEFRとの対照表に基づき、本学独自に換算します。

なお、一般選抜（B日程）は調査書に基づいて外国語評定を行います（ミュージック・リベラルアーツ専攻、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を除く）

名称	スコア	
	声楽専攻、器楽専攻、作曲指揮専攻、 音楽文化教育専攻、吹奏楽アカデミー専攻、 ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	ミュージック・リベラルアーツ専攻
ケンブリッジ英語検定	120 以上	140 以上
実用英語技能検定（S-CBT含む）	準2級 以上	2級 以上
GTEC（アセスメント版を除く）	680 以上	930 以上
IELTS（Academic）※	4.0 以上	4.5 以上
TEAP	135 以上	225 以上
TOEFL iBT®※	2.5 以上（2026年1月21日以降取得） / 42 以上（2026年1月20日まで取得）	3.5 以上（2026年1月21日以降取得） / 52 以上（2026年1月20日まで取得）
TOEIC®（L&R/S&W） （公開テストのみ）※※	625 以上	1150 以上
TOEIC Bridge®（L&R/S&W） （公開テストのみ）※※	129 以上	170 以上

※IELTSまたはTOEFL iBTを利用する場合は、電子スコアの提出も可能です。出願時にTest Report FormまたはTest Taker Score Reportの原本またはコピーを提出してください。TOEFL iBTの本学の機関コードは「B988」です。

※※TOEIC および TOEIC Bridge（L&R/ S&W）については、S&Wのスコアを2.5倍にして合算

【15】 認定証のコピー（該当者のみ）

以下の①、②の対象者は、認定証のコピーを提出することにより当該科目の試験を免除します。

① 本学受験講習会にて実施する認定試験で認定された者

対象科目：楽典、聴音、新曲視唱

② 本学ミュージック・メディア プレップコースで認定された者

対象科目：作曲指揮専攻（作曲「ミュージック・メディアコース」）の和声、伴奏付け

【16】 大学入学共通テスト「成績請求チケット（成績請求票）」（該当者のみ）

令和9年度大学入学共通テスト成績利用者は、大学入学共通テスト出願サイトから「成績請求チケット（成績請求票）」を取得し、提出してください。過年度の成績利用者は、〔6〕大学入学共通テスト過年度成績請求票貼付用紙を提出してください。

【17】 日本語能力の証明書（外国籍志願者の該当者のみ）

該当者は、日本語能力の証明書を提出してください。

※ミュージック・リベラルアーツ専攻志願者は以下の日本語能力の証明書を取得している場合のみご提出ください。

① 日本語能力試験（JLPT）の場合は、日本語能力試験N1またはN2の「認定結果及び成績に関する証明書」の原本を提出してください。

※「日本語能力認定書」の提出は必要ありません。

※日本語能力試験合格証明書の発行が出願期間に間に合わない場合、合格したことがわかるもの（合格画面のスクリーンショット等）の画面を原本の代わりに印刷し、原本をいつまでに提出できるかメモに書いて貼付け、他の出願書類と一緒に郵送にて提出してください。原本は別途郵送してください。

② 日本留学試験（EJU）の場合は、受験票のコピーを提出してください。

※成績は、有効期間以内（試験日が過去2年以内）、かつ出願期間最終日までに確認ができるものを有効とします。

【18】 日本語教育機関の成績証明書・出席証明書（外国籍志願者の該当者のみ）

日本国内の日本語教育機関（日本語学校、留学生別科、専門学校等）に在籍中または修了した方は、当該教育機関が発行する成績証明書および出席状況証明書の原本を提出してください。

※複数の日本語教育機関に在籍または修了した方は、在籍・修了したすべての教育機関が発行する成績証明書および出席状況証明書の原本を提出してください。

※証明書は3か月以内に発行されたものに限りです。

【19】 在留カードのコピーまたは住民票（日本国内在住の外国籍志願者のみ）

※在留カードのコピーを提出する場合は、裏面に記載事項がなくても、必ず表・裏両面をA4サイズの手紙にコピーしてください。

※住民票を提出する場合は、在留資格・在留期間・在留期間満了日の記載を含むもので、出願時の3か月以内に発行されたものを提出してください。

【20】 パスポートのコピー（日本国外在住の外国籍志願者のみ）

※氏名・生年月日・パスポート番号・写真・有効期限のページをA4サイズの手紙にコピーして提出してください。ビザのページではありません。

＜卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項＞

①中国の高等学校を卒業した方

【卒業証明書】

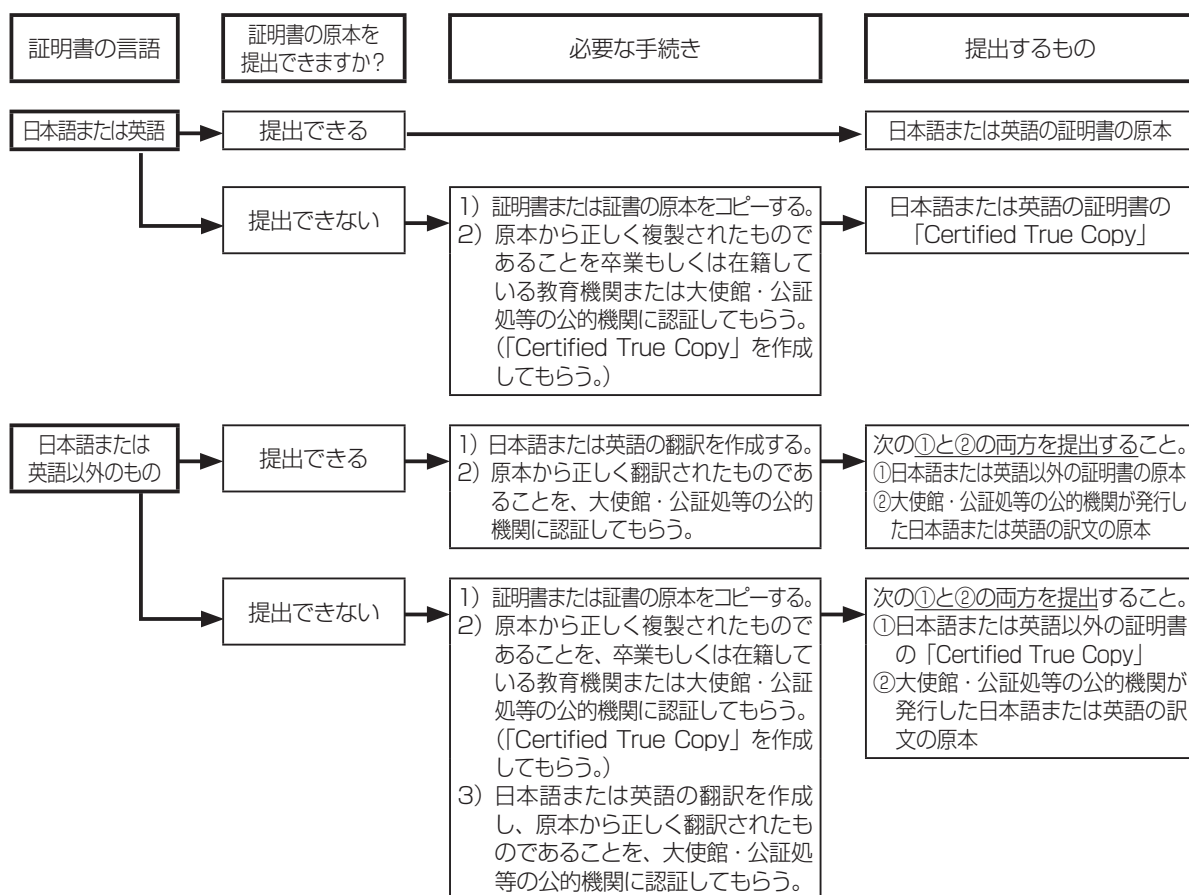
- ・ 中国教育部学歴認証センターまたは、中国教育部学歴認証センター日本代理機構 (<http://www.chsi.jp/>) が発行する英文の「学歴認証報告書」を提出してください。
- ・ 高等学校発行の証明書やその翻訳は出願書類として認められません。
- ・ 「学歴認証報告書」は、CHSI から直接「nyushi@tokyo-ondai.ac.jp」にメールで届くよう、手続きを行ってください。英文以外の認証報告書や、出願者本人が受領し、本学へ転送した認証書は無効とします。
- ・ 認証機関の発行の遅れによって提出が間に合わない場合でも出願が認められない可能性があります。発行まで1か月程度かかるため、時間に余裕をもって発行申請を行ってください。
- ・ 教育制度（国際部等）により、「学歴認証報告書」が提出できない場合は、①高等学校が発行する卒業証明書、②本学指定の「CHSI学歴認証報告書不発行申請書」を「B. 出願書類ダウンロード」より印刷・記入の上、提出してください。
- ・ 高等学校卒業見込みの方は、高等学校が発行する卒業見込み証明書を提出し、卒業後「学歴認証報告書」を提出してください。

【成績証明書】

- ・ 高等学校が発行する成績証明書の原本を提出してください。注意事項は「②中国以外の高等学校を卒業した方」と同様です。

②中国以外の高等学校を卒業した方

- ・ 卒業証明書、成績証明書等の証明書類は原本（卒業もしくは在籍している教育機関が発行し、証明した書類）、または教育機関・大使館・公証処等の公的機関より原本からの正しい複製であるという証明（Certified True Copy）を受けた書類を提出してください。
- ・ 日本語または英語以外の言語で記載された証明書は、大使館・公証処等の公的機関または、翻訳者としての資格を有する翻訳者による翻訳文を原本に添付してください。
- ・ すべての提出書類の氏名・生年月日等はパスポートの記載と一致しているものを提出してください。



6 入学検定料

〔1〕 入学検定料

募 集 専 攻	コース・楽器	検定料
声 楽 専 攻	●声楽芸術	38,000 円*
器 楽 専 攻	●ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース、 チェンバロ、オルガン ●ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、 クラシックギター ●フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン ●ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム ●打楽器	
	●作曲 「芸術音楽コース」 ●作曲 「ミュージック・メディアコース」 ●指揮	
ミュージック・リベラルアーツ専攻		
吹奏楽アカデミー専攻		
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻		20,000 円*

※他の専攻と併願する場合は48,000円

〔2〕 納入方法・時期

出願期間内にWeb出願サイトから決済手続きをしてください。お支払い完了後に決済完了メールが送信されます。

(注意) 納入済みの入学検定料はいかなる理由があっても返還しません。

一般選抜 (A日程)	2027年 1月6日 (水) ~ 18日 (月)
一般選抜 (B日程)	2027年 2月27日 (土) ~ 3月5日 (金)

7 合格発表

合否は、Web出願サイトにて発表します。

電話による問い合わせには応じません。

合格者には、出願時に登録した住所に入学手続書類を郵送します。

登録した住所以外に郵送を希望する場合は、合格発表期間前に入試課へご連絡ください。

●一般選抜 (A日程) 補欠者の発表について

一般選抜 (A日程) 合格発表と同時に補欠者を発表する場合があります。補欠者は合格者ではなく、入学手続者に欠員が生じた場合に限り、順次入学を許可します。入学を許可する場合には所定の期日までに、本学から志願者本人宛に電話および文書で通知します。

●成績開示について

入学試験を受験して志望専攻に不合格であった者から開示請求があった場合、下記のとおり行います。

※器楽専攻 (ピアノ演奏家コース) またはミュージック・リベラルアーツ専攻 (ピアノ演奏家コース) の受験結果により、器楽専攻 (ピアノ) またはミュージック・リベラルアーツ専攻 (ピアノ) 合格となった方は対象外です。

①開示方法

本学が申請書を受領後、開示内容を記載した書面を受験者本人宛に特定記録郵便にて送付します。

なお、郵送が可能な日本国内在住の受験者本人のみ申請いただけます。

②開示申請期間

A日程：2027年2月27日 (土) ~ 3月5日 (金) 必着

B日程：2027年3月19日 (金) ~ 3月24日 (水) 必着

③開示の請求方法

受験票、返信用封筒 (返信先を明記し、320円切手を貼付した定型封筒) および申請書*を同封の上、「入学試験成績開示請求」と朱書きをして、特定記録郵便により入試課へ送付してください。

*申請書には次の(1)から(3)の事項を記載してください (様式自由)。

(1) 氏名 (2) 受験番号 (3) 出願の専攻・コース・楽器

8 入学手続

入学手続の流れは以下のとおりです。



〔1〕 入学金・学費等の納入・期間

下記の期間中に入学金・学費等を納入するとともに、〔2〕入学手続に必要な書類を入試課へ簡易書留またはレターバックにて郵送してください。最終日の消印有効。

※入学金・学費等の納入期日は、必ず大学の口座に入金される日であること。

一般選抜（A 日程）	2月27日（土）～3月5日（金）
一般選抜（B 日程）	3月19日（金）～3月24日（水）

※上記の期間内に手続を完了しない者は、入学の意志がないものとして合格を取り消します。

〔2〕 入学手続に必要な書類

- ①誓約書・個人情報の取扱いに関する同意書（本学所定の用紙）
 - ②住民票または住民票記載事項証明書（3か月以内のもの）
 - ③高等学校卒業証明書（高等学校卒業以外の者は資格証明書、高等学校卒業程度認定試験および大学入学資格検定合格者は合格証明書）
※2027年3月卒業見込みの者は、卒業後提出
 - ④学生証用写真
 - ⑤その他本学が提出を指示したもの
- ※詳細は入学手続書類に同封される案内をご確認ください。
※入学までに大学入学資格を満たせなかった場合は、その旨をすみやかに入試課にご連絡ください。
※提出された書類の記載事項に虚偽が判明した場合、合格または入学を取り消します。

〔3〕 入学許可

手続きを完了した者には、入学許可書を交付します。

一般選抜（A日程）に合格し、入学手続きを行った者が別の専攻・コースで一般選抜（B日程）に合格した場合、一般選抜（A日程）の辞退手続を行う必要はありません。

〔4〕 入学辞退

入学を辞退する場合は、3月30日（火）11：30までに入試課に申し出てください。なお、納入済みの入学金はいかなる理由があっても返還しません。

手続方法の詳細は、入学手続書類に同封される案内をご確認ください。

9 学費その他の納入金

〔1〕 学費 (2027年度)

◆声楽専攻、器楽専攻、作曲指揮専攻（作曲「芸術音楽コース」、指揮）、ミュージック・リベラルアーツ専攻、吹奏楽アカデミー専攻

納入方法	入学金（※1）	授業料	施設等維持費（※2）	合 計
春学期	100,000円	768,500円	327,500円	1,196,000円
秋学期	—	768,500円	327,500円	1,096,000円

◆作曲指揮専攻（作曲「ミュージック・メディアコース」）

納入方法	入学金（※1）	授業料	施設等維持費（※2）	合 計
春学期	100,000円	813,500円	327,500円	1,241,000円
秋学期	—	813,500円	327,500円	1,141,000円

◆音楽文化教育専攻、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

納入方法	入学金（※1）	授業料	施設等維持費（※2）	合 計
春学期	100,000円	568,500円	327,500円	996,000円
秋学期	—	568,500円	327,500円	896,000円

※1 付属高等学校からの1年次進学者 50,000円

〔2〕 学費以外の諸費用 (2027年度)

納入時期	後援会入会金 (入学時)	後援会費(毎年)	校友会費(4年次)	卒業記念費(4年次)
春学期	10,000円	5,000円	20,000円	10,000円
秋学期	—	5,000円	—	—

〔3〕 その他（履修者のみ） (2027年度)

教職課程費 (2年次以降毎年度)	第二副科実技(年額)	音楽実技Ⅰ～Ⅷ (年額)（※2）
50,000円	100,000円	400,000円

※2 音楽文化教育専攻（卒業に必要な単位数に含まれる）
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻（卒業に必要な単位数に含まれない）

学費に関する最新情報については、以下のリンクよりご確認ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/about/expenses>



学費および学費の取り扱いは、今後変更となる場合があります。

モバイルPC必携化について（対象：ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を除く全専攻の方）

本学では一部の授業でPCが必須になるため、個人所有のモバイルPCを大学の授業等で利用するBYOD（Bring Your Own Device：PCの必携化）を実施しており、ご自身でPCと自宅のネットワーク環境をご用意いただく必要があります。

なお、求められるスペック等については入学後に各専攻でご案内いたしますので、入学前に購入を急ぐ必要はありません。

10 奨学金制度・経済的支援制度

本学の奨学金・経済的支援制度については、以下のリンクよりご確認ください。
<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/12765.php>



11 外国学生(外国籍)の方へ:在留資格「留学」の取得について

(1) 日本に在留する在留資格を有している場合

①「留学」の在留資格を有している者

在留期間更新許可申請をしてください。在留期間更新許可申請は、在留期間が満了する3か月前から可能です。ただし、在留資格に該当する活動を行うことなく3か月以上滞在すると、在留資格取り消しの対象となりますのでご注意ください。

また、在留期間が本学入学後まで残っている場合にも、所属する学校に変更があった場合には、変更後14日以内に法務省東京出入国在留管理局へ「所属機関に関する届出」を提出することが義務付けられています。

②「留学」以外の在留資格で日本に滞在していて、在留資格「留学」の取得を希望する者

在留資格変更申請をしてください。入学手続完了時に「入学許可書」を発行します。この「入学許可書」を使用し、日本国内で在留資格を変更することが可能です。ただし、「短期滞在」の在留資格で日本に入国している者は、原則として日本国内で在留資格の変更は認められていないので、一度日本国外へ出て「留学」ビザを取得しなければならなくなることもあります。

③「留学」以外の長期滞在可能な在留資格を有する者

在留資格「定住」「家族滞在」等を有する方は、在留資格「留学」への資格変更の義務はありません。ただし、留学生対象の各種補助制度への申込および留学生対象の授業の履修はできません。必要に応じて在留資格の更新・変更を行ってください。

更新・変更を行う場合は、現在持っている在留資格の種類により申請方法・書類が異なりますので、最寄りの出入国在留管理局へ問い合わせてください。

[注] 本学入学前に、日本において日本語教育施設または専修学校（日本語学校、大学・短期大学の日本語別科、その他各種専門学校等）に在籍している者は、在留期間更新・資格変更申請の際に、法務省東京出入国在留管理局から、在籍していた教育機関が交付する出席状況証明書の提出を求められます。在籍状況に問題がある場合は、不許可となる場合があります。

(2) 日本に在留する資格を有していない場合

本国の日本大使館または領事館にて「留学」ビザ発給の申請を行ってください。あらかじめ本人または代理人が、法務省東京出入国在留管理局から「在留資格認定証明書（Certificate of Eligibility=COE）」を取得し、これを使用して「留学」ビザ発給の申請を行うと、審査が円滑に行われるとされています。日本に親族や経費支弁者または奨学金支給者がいる場合は、「在留資格認定証明書」交付の代理申請を依頼してください。代理申請を本学が行うことを希望する者は、合格者に案内する必要書類を入学手続時に提出してください。

[注] 在留資格認定証明書（COE）の取得には通常2～3か月程度、COE取得後の在外公館における「留学」査証（ビザ）の発給には約3週間～1か月程度を要します。

入試日程や入学手続きの時期によっては、在留手続きが授業開始日に間に合わず、日本への渡航が遅れる可能性があります。出願を検討する際は、在留手続きに要する期間を十分に考慮し、余裕をもって申請してください。

また、入学時までには渡航が完了しない場合や、入学後に一時帰国が必要となる場合があります。その場合、授業が欠席となり単位取得に影響することや、高額な渡航費用が生じる可能性があります。

[注] ビザ取得の審査は法務省が行うため、不許可となった場合、大学は一切責任を負いません。

[注] 留学生を対象とする授業料補助および大部分の各種奨学金は、在留資格「留学」の者を対象としています。

12 学生寮（女子のみ）

自宅からの通学が困難（通学時間3時間以上を目安）な学生(女子)に対し、学生寮が設けられています。

【1】 施設・設備

- ①所 在 地 〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-22-10（池袋キャンパス敷地内）
- ②収 容 定 員 124名（高校生20名を含む）
- ③建物の構造 地上5階
- ④寮 室 面 積 約8㎡
- ⑤寮 室 備 品 デスク、収納棚、ベッド、エアコン、冷蔵庫、※Wi-Fi完備
- ⑥付 帯 設 備 ラウンジ、浴室、洗面所、洗濯室、パソコン、コピー機

【2】 入寮費用（2026年度入学者実績・参考）

入寮金（入寮時のみ）	寮費
80,000円	78,000円（月払い・食費込） ※朝・夕2食（日・祝含む）

- ①寮費（月額）は、1年間にかかる総額の12等分となります。
- ②上記費用は、物価の高騰等により値上げする場合があります。

【3】 申込方法

2月、3月の時点で、学生寮に空室がある場合は、本学ウェブサイト内に開設される合格者専用ページにて、募集の詳細をご案内いたします。

【4】 その他

- ①お盆および年末年始の指定日は、閉寮となります。
- ②入寮申し込みの際には、必ず入寮案内で詳細を確認してください。
- ③不明な点は、学生支援課（TEL 03-6455-2756）までお問い合わせください。

Ⅱ 一般選抜（A日程）

- 1 専攻別試験科目・配点
- 2 併願について
- 3 入学試験

1 専攻別試験科目・配点

試験科目		大学入学共通テスト			資格		一般選抜（A日程）個別学力検査等													備考
		外国語	英語	任意の1科目	英語	英語	数学	専攻別実技試験	小論文	面接・口述試験（注3）	副科実技（ピアノ）	コールドアップンゲン	新曲視唱（注4）	初見演奏	聴音（和音・旋律）（注4）	聴音（四声体和声・旋律）（注4）	楽典（注4）	創作		
専攻・コース名		配点	50点	100点	100点	（注1）	（注2）	各100点				各50点							ABC（3段階）	
声楽	声楽芸術	選択①				選択①	選択①		○			○	○	選択②		選択②		○		
器楽	ピアノ・ピアノ演奏家コース	選択①				選択①	選択①		○					○			○	○		
	ピアノ・創作コース	選択①				選択①	選択①		○					○			○	○	○	
	チェンバロ	選択①				選択①	選択①		○					○			○	○		
	オルガン	選択①				選択①	選択①		○			○				○	○	○		
	弦・管・打楽器	選択①				選択①	選択①		○			○		○		○		○		
作曲指揮	作曲「芸術音楽コース」	選択①				選択①	選択①		○			○		○			○	○		
	作曲「ミュージック・メディアコース」 （注5）	選択①				選択①	選択①		○					○			○			
	指揮	選択①				選択①	選択①		○			○					○	○		
音楽文化教育				選択①		選択①	選択①		○	○	○			選択②		選択②		選択②		
ミュージック・リベラルアーツ				選択①		選択①	選択①		○		○									
吹奏楽アカデミー		選択①				選択①	選択①		○		○	選択②		選択②	選択②	選択②		○		
ミュージックビジネス・テクノロジー					選択①	選択①	選択①	選択①		○ （注6）	○									

※「選択」については、各専攻で同一番号の「選択」より1科目（音楽文化教育専攻の「選択②」のみ2科目）を選んで受験すること。

（注1）文部科学省が公表したCEFRとの対照表に基づき、本学独自に換算する。

（注2）配点100点：音楽文化教育専攻、ミュージック・リベラルアーツ専攻、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻、50点：その他の専攻

（注3）面接・口述試験の内容は専攻によって異なる。

（注4）今年度本学受験講習会にて実施の認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

（注5）今年度本学ミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での「和声」・「伴奏付け」の科目のいずれか、または両方の試験を免除する。

（注6）ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を第2志望で併願する場合は、小論文の試験を免除する。

●過年度の大学入学共通テスト成績の利用について

令和6年度から令和8年度の大学入学共通テスト成績を2027年度東京音楽大学一般選抜に利用する者は、過年度成績請求票を提出してください。申請方法等は「令和9年度 大学入学共通テスト 受験案内」または大学入試センターホームページで確認してください。

2 併願について

〔 併願ができる専攻・コース 〕

- 第1志望のほか、特に希望する者は第2志望としてその他の専攻を併願できます。ただし、専攻によって、第2志望として受験できない組み合わせがありますので、以下の表で確認してください。
- 出願後は第1志望、第2志望とも専攻等の変更は認めません。また、第1志望の試験科目を受験せずに、第2志望のみを受験することはできません。
- 第1志望の専攻・コースで合格となった場合、第2志望の専攻・コースでは合否判定は行いません。

○：併願可 ×：併願不可 ◆：〈注意事項〉参照

志望区分		志望区分	第2志望												
		専攻	音楽	器楽					作曲指揮			音楽文化教育	ミュージック・リベラルアーツ	吹奏楽アカデミー	ミュージックビジネス・テクノロジー
第1志望	音楽	音楽芸術													
		ピアノ	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○
		ピアノ演奏家コース	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	器楽	ピアノ・創作コース	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○
		チェンバロ	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○
		オルガン	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○
		弦楽器	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	◆	○
		管打楽器	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○
	作曲指揮	作曲「芸術音楽コース」	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○
		作曲「ミュージック・メディアコース」	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		指揮	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○
	音楽文化教育		○	○	×	○	○	○	○	×	○		×	×	○
	ミュージック・リベラルアーツ		○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○	×	○
	吹奏楽アカデミー		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	ミュージックビジネス・テクノロジー		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

- ◆ 器楽専攻（コントラバス、ハーブ）と吹奏楽アカデミー専攻（コントラバス、ハーブ）は併願可能。
この場合、どちらが第1志望でも、器楽専攻と吹奏楽アカデミー専攻両方の実技試験を受けること。

〈注意事項〉

器楽専攻およびミュージック・リベラルアーツ専攻の他コース、他楽器合格について

- (1) ピアノ演奏家コースとピアノは併願できませんが、ピアノ演奏家コースの受験結果により、ピアノに合格となる場合があります。
- (2) 弦楽器内での併願はできませんが、ヴァイオリンの受験結果により、ヴィオラに合格となる場合があります。

■併願の試験科目について

第1志望	第2志望	第2志望専攻に必要な試験科目
声楽芸術	ピアノ、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン、作曲「芸術音楽コース」、指揮	第2志望実技、聴音(四声体和声・旋律)と新曲視唱の2科目
	弦・管打楽器	第2志望実技、聴音(和音・旋律)と新曲視唱の2科目
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
ピアノ	声楽芸術	第2志望実技、コールユーブンゲン
	ピアノ・創作コース	創作
	チェンバロ、オルガン、弦・管打楽器、作曲「芸術音楽コース」、指揮	第2志望実技、副科実技(ピアノ)(第2志望がチェンバロ以外の者) ^{※1}
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
ピアノ演奏家コース	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
ピアノ・創作コース	声楽芸術	第2志望実技、コールユーブンゲン、副科実技(ピアノ) ^{※1}
	ピアノ	ピアノ実技試験は器楽専攻(ピアノ)の課題
	チェンバロ、オルガン、弦・管打楽器、作曲「芸術音楽コース」、指揮	第2志望実技、副科実技(ピアノ)(第2志望がチェンバロ以外の者) ^{※1}
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
チェンバロ	声楽芸術	第2志望実技、コールユーブンゲン、副科実技(ピアノ)
	ピアノ、ピアノ・創作コース、オルガン、弦・管打楽器、作曲「芸術音楽コース」、指揮	第2志望実技、副科実技(ピアノ)(第2志望がピアノ、ピアノ・創作コース以外の者)
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問、第2志望実技
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
オルガン	声楽芸術	第2志望実技、コールユーブンゲン
	ピアノ、ピアノ・創作コース、チェンバロ、弦・管打楽器、作曲「芸術音楽コース」、指揮	第2志望実技 ^{※2}
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問、第2志望実技
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
弦楽器	声楽芸術	第2志望実技、コールユーブンゲン
	ピアノ、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン、作曲「芸術音楽コース」、指揮	第2志望実技、聴音(四声体和声・旋律) ^{※3}
	管打楽器	第2志望実技
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問
	吹奏楽アカデミー専攻(コントラバス、ハーブ)	第2志望実技、面接および口述試問
管打楽器	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
	声楽芸術	第2志望実技、コールユーブンゲン
	ピアノ、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン、作曲「芸術音楽コース」、指揮	第2志望実技、聴音(四声体和声・旋律) ^{※3}
	弦楽器	第2志望実技
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問
作曲「芸術音楽コース」	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
	声楽芸術	第2志望実技、コールユーブンゲン
	ピアノ、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン、弦・管打楽器、指揮	第2志望実技
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問、第2志望実技
作曲「ミュージック・メディアコース」	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
指揮	声楽芸術	第2志望実技、コールユーブンゲン
	ピアノ、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン、弦・管打楽器、作曲「芸術音楽コース」	第2志望実技
	音楽文化教育専攻	小論文、口述試問、第2志望実技
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
音楽文化教育 *第2志望の実技課題を受験	声楽芸術	第2志望実技*、コールユーブンゲン、副科実技(ピアノ)、楽典(第1志望受験時に楽典を選択しなかった者)
	ピアノ、ピアノ・創作コース	第2志望実技*、聴音(四声体和声・旋律)、新曲視唱、楽典(第1志望受験時に楽典を選択しなかった者)
	チェンバロ、オルガン、作曲「芸術音楽コース」、指揮	第2志望実技、聴音(四声体和声・旋律)、新曲視唱、楽典(第1志望受験時に楽典を選択しなかった者)、副科実技(ピアノ)(第2志望がチェンバロ以外の者)
	弦・管打楽器	第2志望実技*、副科実技(ピアノ)、聴音(和音・旋律)・新曲視唱・楽典から第1志望受験時に選択しなかった1科目
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問
ミュージック・リベラルアーツ *第2志望の実技課題を受験	声楽芸術	第2志望実技*、コールユーブンゲン、副科実技(ピアノ)、聴音(和音・旋律)・新曲視唱(選択)、楽典
	ピアノ、ピアノ演奏家コース、チェンバロ、オルガン	第2志望実技*、聴音(四声体和声・旋律)、新曲視唱、楽典
	弦・管打楽器	第2志望実技*、聴音(和音・旋律)、副科実技(ピアノ)、新曲視唱、楽典
	音楽文化教育専攻	小論文・口述試問、第2志望実技(第1志望が声楽、ピアノ、ピアノ演奏家コース、弦楽器、管打楽器以外の者)、聴音(和音・旋律)・新曲視唱・楽典から2科目を選択
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	口述試問
吹奏楽アカデミー	弦楽器(コントラバス・ハーブ)	第2志望実技、新曲視唱、聴音(和音・旋律)、副科実技(ピアノ)
	ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	選択科目 ^{※4} 、口述試問

※1 副科実技(ピアノ)は、ピアノ実技試験の成績を50点満点に換算してスライドします。

※2 作曲「芸術音楽コース」または指揮を第2志望とする場合の副科実技(ピアノ)は、第2志望の課題で受験すること。

※3 オルガン、作曲「芸術音楽コース」または指揮を第2志望とする場合の副科実技(ピアノ)は、第2志望の課題で受験すること。

※4 B日程志願者は選択科目より1つを選択すること。

3 入学試験

〔1〕 試験期間

■共通科目等試験日程

- ・楽典、聴音、新曲視唱、コールユーブンゲン、英語 2月16日(火)
- ・副科実技(ピアノ) 2月17日(水)～2月19日(金)

■専攻別試験日程(予定)

専攻・コース・楽器	試験日				
	2月16日(火)	2月17日(水)	2月18日(木)	2月19日(金)	2月20日(土)
声楽専攻		○	○		
ピアノ、ピアノ演奏家コース		○	○	○	
ピアノ・創作コース		○	○		
チェンバロ		○	○	○	
オルガン				○	
弦楽器			○	○	
木管楽器		○ (Ob.Fg.)	○ (Sax.)	○ (Fl.Cl.)	
金管楽器		○ (Tp.Tb.Tu.Eu.)		○ (Hr.)	
打楽器			○		
作曲「芸術音楽コース」			○	○	
作曲「ミュージック・メディアコース」		○	○		
指揮				○ *	
音楽文化教育専攻	○	(実技試験は他専攻の実技試験と同日に実施)			
ミュージック・リベラルアーツ専攻	○	(実技試験は他専攻の実技試験と同日に実施)			
吹奏楽アカデミー専攻				○	
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	○	(他専攻と併願する場合は2/17～19に面接を行う可能性があります)			

* 作曲指揮専攻(指揮)およびミュージック・リベラルアーツ専攻(指揮)の一部の試験は2月21日(日)に実施する場合があります。

※専攻別実技試験は、各専攻の志願者数によって試験会場・時間を決定します。

※器楽専攻(チェンバロ、オルガン)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(チェンバロ、オルガン)志願者は、入学試験期間中に事前練習を行います。

※器楽専攻(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(B)課題(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)志願者は、入学試験期間中に伴奏合わせを行います。

※日程の詳細は、試験初日の3日前までに、メールで送信する案内を参照してください。試験日時、会場に関する電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。なお、期日を過ぎてもメールが届かない場合のみ、迷惑メールフォルダをご確認の上、入試課までご連絡ください。

〔2〕 試験場

- ・東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス(東京都目黒区上目黒1-9-1)
- ・東京音楽大学 池袋キャンパス(東京都豊島区南池袋3-4-5)

〔3〕 練習室について

入試期間中、受験者はキャンパスの練習室を**無料**で利用することができます。各自の専攻実技試験終了後は使用できません。予約方法等の詳細は、メールで送付するお知らせを参照してください。

〔4〕 試験当日に持参するもの

①東京音楽大学一般選抜（A日程）受験票

②筆記用具

③必要な楽器、スタンド等

※コントラバス、ハープ、チューバ、ティンパニ、鍵盤打楽器以外の貸出しはしません。

④昼食（学生レストランの営業については、直前のお知らせをご確認ください。）

⑤楽譜

⑥時計

※辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。

※携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末は使用できません。

参 考：入試期間中の宿泊について

空きがある場合、大学近郊の学生会館（有料）を利用できます。体験入寮のため、特別料金で連泊可能です。ご希望の場合は、以下へお問い合わせください。

㈱共立メンテナンス 学生会館事務局

TEL 0120-88-1030

受付時間 9：00～17：30（土日・祝日を除く）

お電話の際、東京音楽大学の受験者であることをお伝えください。

* 宿泊施設には防音設備のついた練習室はありません。

* 部屋数には限りがあるため、空室のある寮へのご案内になります。詳しくはお電話で確認の上、各自お申し込みください。

* 宿泊施設での事故等の責任は大学では負いかねます。

Ⅲ 一般選抜（B日程）

- 1 専攻別試験科目・配点
- 2 併願について
- 3 入学試験

1 専攻別試験科目・配点

試験科目		大学入学 共通テスト	調査書		資格		一般選抜（B日程）個別学力検査等														備考
		任意の 1科目	外国語	外国語	英語	英語	数学	専攻別実技試験	小論文	面接・口述試験（注5）	副科実技（ピアノ）	コールユーブンゲン	新曲視唱（注6）	初見演奏	聴音（和音・旋律）（注6）	聴音（四声体和声・旋律）（注6）	楽典（注6）	創作			
専攻・コース名		配点	100点	50点 （注1）	100点 （注2）	（注3）	（注4）	各100点				各50点							ABC （3段階）		
音楽	音楽芸術		○					○			○	○	選択 ①		選択 ①		○				
器楽	ピアノ、 ピアノ演奏家コース		○					○					○			○	○				
	ピアノ・創作コース		○					○					○			○	○	○ 専攻別実技試験はピアノ・ 創作コースのピアノ課題			
	チェンバロ		○					○					○			○	○				
	オルガン		○					○			○		○			○	○				
	弦・管・打楽器		○					○			○			○			○				
作曲指揮	作曲「芸術音楽コース」		○					○			○		○			○	○	専攻別実技試験に面接を含む			
	作曲「ミュージック・ メディアコース」（注7）		○					○					○			○	○	専攻別実技試験に小論文、 面接を含む			
	指揮		○					○			○		○			○	○	専攻別実技試験に小論文、 面接を含む			
音楽文化教育				○				○	○	○			選択 ①		選択 ①		選択 ①				
ミュージック・リベラルアーツ						選択 ①	選択 ①		○		○										
吹奏楽アカデミー			○					○		○	選択 ①		選択 ①	選択 ①	選択 ①		○				
ミュージックビジネス・テクノロジー		選択 ①				選択 ①	選択 ①	選択 ①		○ （注8）	○										

※「選択」については、各専攻で同一番号の「選択」より1科目を選んで受験すること。

（注1）調査書3年間の外国語の学習成績の状況（評定平均値）を50点に換算します。

※卒業後、5年以上の経過者または、廃校、被災その他の事情により高校から調査書が発行できない場合は、本学の英語の試験を受けること。

（注2）調査書3年間の外国語の学習成績の状況（評定平均値）を100点に換算します。

※卒業後、5年以上の経過者または、廃校、被災その他の事情により高校から調査書が発行できない場合は、本学の英語の試験を受けること。

（注3）文部科学省が公表したCEFRとの対照表に基づき、本学独自に換算する。

（注4）配点100点：音楽文化教育専攻、ミュージック・リベラルアーツ専攻、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻、50点：その他の専攻

（注5）面接・口述試験の内容は専攻によって異なる。

（注6）今年度本学受験講習会にて実施の認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

（注7）今年度本学ミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での「和声」・「伴奏付け」の科目のいずれか、または両方の試験を免除する。

（注8）ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を第2志望で併願する場合は、小論文の試験を免除する。

■一般選抜（A 日程）を受験した者は、志願者の選択により音楽基礎能力検査（楽典、聴音、新曲視唱、副科実技（ピアノ）、コールユーブンゲン）の受験が免除されます。一般選抜（B 日程）の出願の際に、該当項目にチェックしてください。受験免除の場合、一般選抜（A 日程）の該当科目の成績を一般選抜（B 日程）の成績とし、それ以外の試験科目を受験することになります。（ミュージック・リベラルアーツ専攻、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻は、音楽基礎能力検査を課さないため、適用外）

●過年度の大学入学共通テスト成績の利用について

令和6年度から令和8年度の大学入学共通テスト成績を2027年度東京音楽音楽大学一般選抜に利用する者は、過年度成績請求票を提出してください。申請方法は「令和9年度 大学入学共通テスト 受験案内」または大学入試センターホームページで確認してください。

2 併願について

〔併願ができる専攻・コース〕

- 第1志望のほか、特に希望する者は第2志望としてその他の専攻を併願できます。ただし、専攻によって、第2志望として受験できない組み合わせがありますので、以下の表で確認してください。
- 出願後は第1志望、第2志望とも専攻等の変更は認めません。また、第1志望の試験科目を受験せずに、第2志望のみを受験することはできません。
- 第1志望の専攻・コースで合格となった場合、第2志望の専攻・コースでは合否判定は行いません。

○：併願可 ×：併願不可 ◆：〈注意事項〉参照

志望区分		第2志望													
		専攻	音楽	器楽						作曲指揮		音楽文化教育	ミュージック・リベラルアーツ	吹奏楽アカデミー	ミュージックビジネス・テクノロジー
志望区分	専攻		音楽芸術	ピアノ	ピアノ演奏家コース	ピアノ・創作コース	チェンバロ	オルガン	弦楽器	管打楽器	作曲「芸術音楽コース」	作曲「ミュージック・メディアコース」	指揮		
第1志望	音楽	音楽芸術		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	器楽	ピアノ	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		ピアノ演奏家コース	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		ピアノ・創作コース	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	○
		チェンバロ	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	○
		オルガン	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	○
		弦楽器	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	◆	○
		管打楽器	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	○
	作曲指揮	作曲「芸術音楽コース」	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	○
		作曲「ミュージック・メディアコース」	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	○
		指揮	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	○
	音楽文化教育		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	○
	ミュージック・リベラルアーツ		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		○
	吹奏楽アカデミー		×	×	×	×	×	×	◆	×	×	×	×	×	○
	ミュージックビジネス・テクノロジー		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

◆器楽専攻 弦楽器（コントラバス、ハープ）と吹奏楽アカデミー専攻（コントラバス、ハープ）は併願可能。
この場合、どちらが第1志望でも、器楽専攻と吹奏楽アカデミー専攻両方の実技試験を受けること。

〈注意事項〉

器楽専攻およびミュージック・リベラルアーツ専攻の他コース、他楽器合格について

- (1) ピアノ演奏家コースとピアノは併願できませんが、ピアノ演奏家コースの受験結果により、ピアノに合格となる場合があります。
- (2) 弦楽器内での併願はできませんが、ヴァイオリンの受験結果により、ヴィオラに合格となる場合があります。

※一般選抜（B日程）の併願試験科目は、一般選抜（A日程）の「■併願の試験科目について」を参照のこと。

3 入学試験

〔1〕 試験期間

■ 2027年度試験日程（予定）

3月16日（火）	専攻別実技試験、楽典、聴音、新曲視唱、コールユーブンゲン、副科実技（ピアノ）
3月17日（水）	専攻別実技試験

※専攻別実技試験は、各専攻の志願者数によって試験会場・時間を決定します。

※一部の試験を3月15日（月）に実施する場合があります。

※器楽専攻（チェンバロ、オルガン）、ミュージック・リベラルアーツ専攻（チェンバロ、オルガン）志願者は、入学試験期間中に事前練習を行います。

※器楽専攻（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）、ミュージック・リベラルアーツ専攻（B）課題（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）志願者は、入学試験期間中に伴奏合わせを行います。

※日程の詳細は、試験初日の3日前までに、メールで送信する案内を参照してください。試験日時、会場に関する電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。なお、期日を過ぎてもメールが届かない場合のみ、迷惑メールフォルダをご確認の上、入試課までご連絡ください。

〔2〕 試験場

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス（東京都目黒区上目黒1-9-1）

東京音楽大学 池袋キャンパス（東京都豊島区南池袋3-4-5）

〔3〕 練習室について

入試期間中、受験者はキャンパスの練習室を無料で利用することができます。各自の専攻実技試験終了後は使用できません。予約方法等の詳細は、メール送付するお知らせを参照してください。

〔4〕 試験当日に持参するもの

①東京音楽大学一般選抜（B日程）受験票

②筆記用具

③必要な楽器、スタンド等

※コントラバス、ハーブ、チューバ、ティンパニ、鍵盤打楽器以外の貸出しはしません。

④昼食（学生レストランの営業については、直前のお知らせをご確認ください。）

⑤楽譜

⑥時計

※辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。

※携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末は使用できません。

参 考：入試期間中の宿泊について

空きがある場合、大学近郊の学生会館（有料）を利用できます。体験入寮のため、特別料金で連泊可能です。ご希望の場合は、以下へお問い合わせください。

（株）共立メンテナンス 学生会館事務局

TEL 0120-88-1030

受付時間 9：00～17：30（土日・祝日を除く）

お電話の際、東京音楽大学の受験者であることをお伝えください。

* 宿泊施設には防音設備のついた練習室はありません。

* 部屋数には限りがあるため、空室のある寮へのご案内になります。詳しくはお電話で確認の上、各自お申し込みください。

* 宿泊施設での事故等の責任は大学では負いかねます。

IV 入学試験科目

- 1 声楽専攻
 - 2 器楽専攻
 - 3 作曲指揮専攻
 - 4 音楽文化教育専攻
 - 5 ミュージック・リベラルアーツ専攻
 - 6 吹奏楽アカデミー専攻
 - 7 ミュージックビジネス・テクノロジー専攻
- 入学者選抜試験における不正行為等について

1 声楽専攻

声楽芸術

○入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜（A日程）】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験
詳細はp.13 [14] を参照のこと。

【一般選抜（B日程）】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱・聴音より 1科目選択

(1) 新曲視唱：8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

(2) 聴音（30分）：旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和音聴音・・・高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. コールユーブンゲン

原書番号No.48～51、56～59の中から当日1曲指定する（『全訳コールユーブンゲン』大阪開成館）。

移動ド唱法または固定ド唱法のいずれでも可。

試験室においてピアノにより和音および開始音が与えられる。

5. 副科実技（ピアノ）

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノンNo.39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノンNo.39の場合は、速度は♩＝76程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。

本学指定の音階の場合、この速度は二分音符＝72程度以上とする。

(2) 自由曲：ソナチネ、ソナタ、バッハのインヴェンション程度の楽曲を1曲。ソナチネ、ソナタの場合はその任意の楽章を1つ。

※繰り返しは任意。

※抜粋の場合は、専攻別曲目記入票に楽章等を明記すること。作品番号、調性なども記入すること。

6. 専攻実技

下記の専攻実技の課題を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

◇課題曲

(1) 課題曲：次の課題曲表から3曲を選ぶこと。その中から当日1曲指定する。

※歌詞は原語で、暗譜で歌うこと。

※演奏の途中で打ち切る場合がある。

※() 内のアルファベットは調性を表す。これら以外の調で歌う場合は移調譜を出願書類と共に提出すること。

※伴奏者は大学が用意する。

No.	曲 名	作曲者
①	Già il sole dal Gange (B, As, G)	A. Scarlatti
②	Se tu della mia morte (g, f, e)	A. Scarlatti
③	Sento nel core (g, f, es)	A. Scarlatti
④	Lasciar d' amarti (g, f, d)	F. Gasparini
⑤	Star vicino (A, B, G)	L. Mancia (伝 S.Rosa)
⑥	Sebben, crudele (e, d, c)	A. Caldara
⑦	Vergin, tutto amor (d, c, h)	F. Durante
⑧	Nina (g, fis, e, d)	作曲者不詳
⑨	Nel cor più non mi sento (F, G)	G. Paisiello
⑩	Sogno (B, As, Ges)	F. Tosti
⑪	An Chloe (Es, C)	W. A. Mozart
⑫	Ich liebe dich (G, F)	L. v. Beethoven
⑬	An die Musik (D, C, B)	F. Schubert
⑭	Geheimes (As, F, Es, D)	F. Schubert
⑮	Lachen und Weinen (As, F, E)	F. Schubert
⑯	Die Lotosblume (F, Es, Des)	R. Schumann
⑰	Widmung (As, Ges, F)	R. Schumann
⑱	Dein blaues Auge (Es, D)	J. Brahms
⑲	Sonntag (G, F, Es)	J. Brahms
⑳	Zueignung (C, A, G)	R. Strauss
㉑	秋の月 [山田耕筰 編曲] (h)	滝 廉太郎
㉒	荒城の月 [山田耕筰 編曲] (1,2番) (d, c)	滝 廉太郎
㉓	母 (As, G, F)	小松 耕輔
㉔	この道 (1,2番) (E, D)	山田 耕筰
㉕	北秋の『沙羅』より (D, Des)	信時 潔
㉖	行々子『沙羅』より (Fis, F)	信時 潔
㉗	浜千鳥 (Es, C)	弘田 龍太郎
㉘	浜辺の歌 (1,2番) (As, F)	成田 為三
㉙	ゆりかご (E, D)	平井 康三郎
㉚	むこうむこう (F)	中田 喜直

(2) 自由曲：1曲(4分以内)。ただし、(1)の課題曲表以外の曲目とする。

※歌詞は原語で、暗譜で歌うこと。

※日本歌曲、ミュージカルナンバー可*。

※オペラ・アリアは原調で歌うこと。

※伴奏譜を出願書類と共に提出すること(前奏、間奏、後奏のカット可。その他の部分のカットが記載されている場合は、本学で確認し、内容によっては訂正を求めることがある)。

※伴奏者は大学が用意する。

*ミュージカルナンバーについて

- ・訳詞による歌唱可。言語は限定しない。
- ・マイクの使用不可。
- ・伴奏譜は出版譜に限る。

2 器楽専攻

鍵盤楽器

○入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜(A日程)】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験
詳細はp.13 [14] を参照のこと。

【一般選抜(B日程)】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

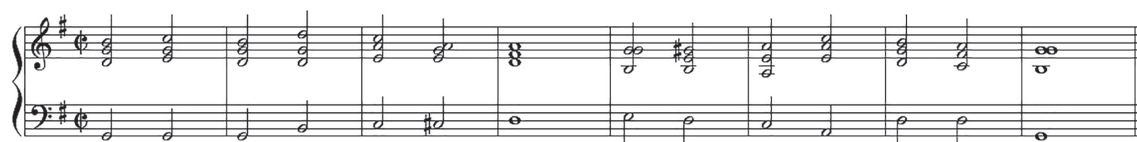
3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音（30分）：旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音・・・大譜表による四声体和声（密集）、8小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する

5. 副科実技（ピアノ）※オルガン志願者のみ

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノンNo.39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノンNo.39の場合は、速度は♩=76程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72程度以上とする。

(2) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）

6. 専攻実技

下記の専攻実技の課題を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

【ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース対象】
「対面式」と「非対面式(実技の動画審査)」から選択することが可能です。
※曲目記入票記入の際は、総時間には曲間を含めず、各曲の演奏時間の合計時間を書くこと。

◇課題曲

■ピアノ

すべて暗譜で演奏すること。

次の **a 課題** または **b 課題** を選択すること。

a 課題

- (1) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）
※当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。
- (2) 次の(イ)～(ホ)の練習曲集より任意の2曲（同一作曲家の組み合わせでなくても可）
(イ) モシュコフスキー Op.72
(ロ) クレメンティ（タウジヒ編による29の練習曲より選択のこと）
(ハ) チェルニー Op.740（50番練習曲）
(ニ) モシェレス
(ホ) ショパン Op.10, Op.25（Op.10 No.6, Op.25 No.7を除く）
- (3) 自由曲（自作品は不可。5分以上8分程度。複数曲可。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）
省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

b 課題

自由曲（自作品は不可。12分以上17分程度。1曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）
省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

■ピアノ演奏家コース

すべて暗譜で演奏すること。

次の **a 課題** または **b 課題** を選択すること。

a 課題

- (1) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）
※当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。
- (2) ショパン『練習曲集』Op.10, Op.25より任意の2曲（Op.10 No.6, Op.25 No.7を除く）
- (3) 次の①または②を選択すること。
 - ① 次の(イ)～(ト)の練習曲集より任意の1曲
(イ) リスト
(ロ) ドビュッシー
(ハ) スクリャーピン Op.8, Op.42, Op.65
(ニ) ラフマニノフ Op.33, Op.39
(ホ) プロコフィエフ Op.2
(ヘ) パルトーク Op.18
(ト) リグティ
 - ② ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのソナタの中から、任意の楽章を1つ

- (4) 自由曲（自作品は不可。12分以上15分程度。複数曲を演奏する場合は、楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※(1)～(4)の順で演奏すること。

b 課題

自由曲（自作品は不可。25分以上30分程度。1曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※器楽専攻（ピアノ演奏家コース）の受験結果により、器楽専攻（ピアノ）に合格となる場合がある。

■ピアノ・創作コース

1. ピアノ実技

すべて暗譜で演奏すること。

次の a 課題または b 課題を選択すること。

a 課題

- (1) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意のプレリュードまたはフーガのどちらか

- (2) 次の(イ)～(ホ)の練習曲集より任意の1曲

(イ) モシュコフスキー Op.72

(ロ) クレメンティ（タウジヒ編による29の練習曲より選択のこと）

(ハ) チェルニー Op.740（50番練習曲）

(ニ) モシェレス

(ホ) ショパン Op.10, Op.25（Op.10 No.6, Op.25 No.7を除く）

- (3) 自由曲（自作品は不可。5分以上 8分程度。複数曲可。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

b 課題

自由曲（自作品は不可。12分以上17分程度。1曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

2. 創作

自作の楽譜を1曲、出願書類と共に提出すること。編成および曲の長さは自由とする。

例：ピアノ独奏曲、電子オルガンを含むアンサンブル作品等

■チェンバロ

- (1) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』（第1巻、第2巻）から、任意のプレリュードとフーガを1曲

- (2) D.スカルラッティの任意のソナタを1曲

- (3) 通奏低音

『クラヴィス』（現代ギター社刊）のp.80-84の練習1～10のうちから、当日指定されたものを、右手用のガイドなしで演奏する。

※いずれも暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※楽器は二段鍵盤チェンバロ（音域FF～f3、8'8"4、a1=415）

■オルガン

- (1) J.S.バッハ『オルガン小曲集』(Orgelbüchlein BWV 599-644) から任意の5曲
- (2) 任意のオルガン曲1曲(コラール編曲以外の作品とする)

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※アシスタントの要、不要を専攻別曲目記入票に記入すること。

※試験日以前に、レジストレーションのための若干の練習時間を与える。

弦・管・打楽器

○入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜(A日程)】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験
詳細はp.13 [14] を参照のこと。

【一般選抜(B日程)】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音（30分） 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和音聴音・・・高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 副科実技（ピアノ）

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノンNo.39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノンNo.39の場合は、速度は♩=76程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72程度以上とする。

(2) 自由曲：ソナチネ、ソナタ、バッハのインヴェンション程度の楽曲を1曲。ソナチネ、ソナタの場合はその任意の楽章を1つ。

※繰り返しは任意。

※抜粋の場合は、専攻別曲目記入票に楽章等を明記すること。作品番号、調性なども記入すること。

6. 専攻実技

下記の専攻実技の課題を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

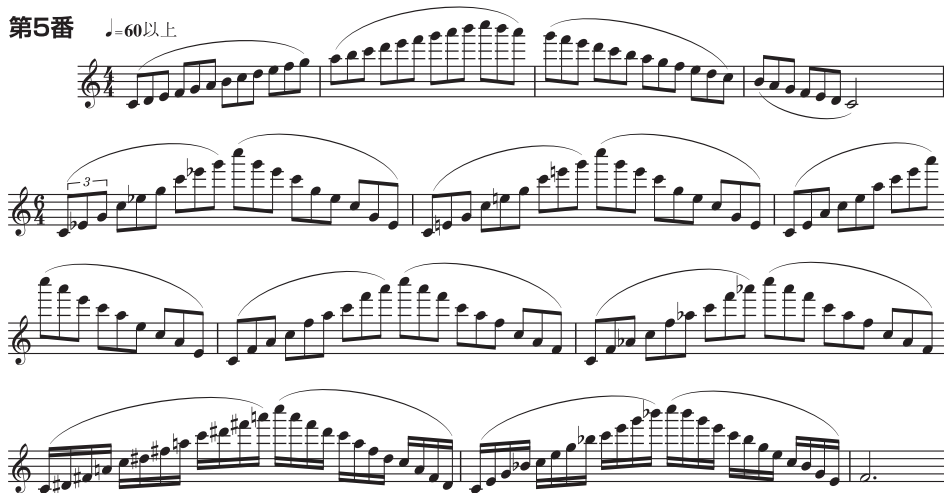
■ヴァイオリン

(1) 音階および分散和音

Carl Flesch: Scale system (C. フレッシュ『スケール・システム』) より、任意の長調または短調を選び、第5、6、7、8 番を演奏する。運指の指定なし。

①第5番は冒頭から12小節目までを演奏する。 $\text{♩}=60$ 以上（スラーは下記のC-durに準ずる）

②第6、7、8番は各々冒頭から4小節目までを、速やかに続けて演奏する。 $\text{♩}=60$ 以上（スラーは16分音符4個以上とする。1小節2弓でも可。下記の第6番参照）

第5番 $\text{♩}=60$ 以上第6番 $\text{♩}=60$ 以上

(2) 練習曲

P. Rode、J. Dont (Op.35)、N. Paganiniの練習曲、カプリスより任意の1曲、または同程度もしくはそれ以上の難易度の任意の1曲

※N. Paganiniのカプリスについては、No.17, 24以外は、繰り返しはなしで演奏すること。

(3) 任意の協奏曲より第1楽章（カデンツァを含む）

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3) の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること（出版譜に限る）。

※演奏によりヴァイオリンに適性ありと認め得る受験者は、ヴァイオリンで合格となる場合がある。

※(1) ～ (3) の順で演奏すること。

■ ヴィオラ

(1) 音階および分散和音

Carl Flesch : Scale systemより、任意の長調または短調を選び、第5、6番を演奏する。運指、テンポの指定なし。

①第5番は冒頭から12小節目までを演奏する。

②第6番は冒頭から4小節目までを演奏する。(スラーは16分音符4個以上とする)

第5番



第6番



(2) B. Campagnoli : 41 Caprices (B. カンパニョーリ『41のカプリース』) から任意の1曲、または同程度もしくはそれ以上の難易度の任意の1曲

(3) 次の(イ)～(ハ)より任意の1曲

(イ) Carl Stamitz : ヴィオラ協奏曲二長調作品1 より 第1楽章

(ロ) Franz Hoffmeister : ヴィオラ協奏曲二長調 より 第1楽章

(ハ) 上記の(イ)、(ロ)と同程度もしくはそれ以上の曲から1曲(版の指定なし)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※ヴァイオリンによる受験可。出願書類の志望欄にヴィオラと記入し、ヴァイオリンの課題で受験すること。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

■チェロ

(1) 音階

次の楽譜を演奏すること。運指の指定なし。

♩=40

3

6

9

12

14

(2) 練習曲

次の(イ)～(ハ)より任意の1曲

(イ) D. Popper : Hohe Schule des Violoncellspiels, Op.73 (ポッパー：40の練習曲)

(ロ) J. L. Duport : 21 études (デュポール：21の練習曲)

(ハ) A. Schroeder: 170 foundation studies for violoncello, 2(シュレーダー：170の基礎練習第2巻)

(3) 任意のチェロ協奏曲より第1楽章または最終楽章(カデンツァなし)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

■コントラバス

(1) 音階および分散和音

次の楽譜を演奏すること。運指の指定なし。



(2) 下記のいずれかを選択すること。

- (イ) 任意のソナタより第1楽章と第2楽章
- (ロ) 任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章

※オーケストラチューニング、暗譜で演奏すること。

※(2)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること（出版譜に準ずる）。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

■ハープ

(1) F. J. Naderman : 7 Sonates progressives, Op.92より任意の第1楽章

(2) 自由曲 (J. L. Dussekのソナタまたは同程度の難易度の作品) 1曲

※暗譜で演奏すること。伴奏なし。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

■クラシックギター

(1) F. SorまたはH. Villa-Lobosの練習曲より任意の1曲

(2) 自由曲1曲

※暗譜で演奏すること。伴奏なし。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

■フルート

(1) 音階および分散和音

M. Moyse : Exercices journaliers pour la flûte (M. モイーズ『フルートのための日課練習』) より
長音階 (A)、短音階 (B)、分散三和音 (C) を演奏する。
J ♯60 (譜例参照)

A,B譜例



C譜例



(2) Paganini : 24 Caprices Opus 1 (パガニーニ : 24のカプリス 作品1) よりNo.7 (繰り返しなし)
Herman=Wummer編のInternational版 (フルート譜) を使用すること

(3) W.A. Mozart: フルート協奏曲 第2番二長調 K. 314より第1楽章および第2楽章(カデンツァは含まない)。
版の指定なし。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること (電子楽譜は使用不可)。

※(1)(2)(3)それぞれ演奏箇所は当日指定する。

※(3)の伴奏者は大学が用意する (楽譜の提出不要)。前奏は1楽章: Soloの6小節前より、2楽章: Soloの4小節前より始める。

■オーボエ

(1) 音階

次のA、B いずれかの音型によって長音階と短音階 (和声的) を演奏すること。調性、スラー等は当日指定する。暗譜で演奏すること。

A例



B例



(2) F. W. Ferling : 48 Etudes, Op.31 (F. W. フェルリンク『48のエチュード』) No. 1-8の中から当日指定する。

※(2)は版の指定なし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること (電子楽譜は使用不可)。

■クラリネット

(1) 音階

R. Eichler : Scales for Clarinet より各調の1番をスラーで演奏すること。調性は当日指定する。暗譜で演奏すること。

(2) エチュード

①E. Cavallini : 30 Capricci (Ricordi) よりNo.17, 19の2曲。演奏箇所は当日指定する。

②C. Rose : 32 Etudes (Leducまたは全音楽譜出版社) よりNo. 19, 21の2曲。

演奏箇所は当日指定する。

(3) 楽曲

C.M.von Weber : Concertino op.26 (出版社は問わない)。

前奏はSolo の3小節前より始める。

※(2)(3)は暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※(3)の伴奏者は大学で用意する(楽譜の提出不要)。

■ファゴット

(1) 音階

次の音型によって、長音階と短音階(和声的)を演奏すること。調性、スラー等は当日指定する。暗譜で演奏すること。



(2) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op.8. Vol.2 のNo.1-15 より当日2曲指定する。

(3) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op.8. Vol.2 のNo.22-43 より任意の1曲

※(2)(3)は暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■サクソフォーン

⇒ アルト・サクソフォーンで受験すること。

(1) 音階

次の音型によって、長音階と短音階(和声的)をスラーで演奏すること。調性は全調の中から当日指定する。暗譜で演奏すること。繰り返しなし。

音階譜例



(2) F. W. Ferling : 48 études pour tous les saxophones (F. W. フェルリンク『サクソフォーンのための48の練習曲』[M.ミュールによる増補改訂版](A.Leduc)) より任意の奇数番号1曲と任意の偶数番号1曲の計2曲を演奏すること。

(3) 自由曲1曲(編曲作品可。抜粋の場合は、楽章等を専攻別曲目記入票に明記すること)

※(2)(3)は暗譜の必要なし。伴奏なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

◇課題曲

金管楽器

音階および分散和音

ホルン、トロンボーン、チューバ共通課題

次の例にしたがって、長音階と短音階（和声的または旋律的）を暗譜で演奏すること。調性、音域は当日指定する。



■ホルン

(1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）

調性、音域は当日指定する。

(2) W. A. Mozart : ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K.447より 第1楽章（カデンツァなし）。前奏は Soloの4小節前より始め、それ以降のカットなし。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※伴奏者は大学が用意する（伴奏譜の提出不要）。

■トランペット

(1) Théo Charlier : 36 études transcendantes (Alphonse Leduc版) より No.2“Du style”

(2) 以下の4曲より1曲を選択し演奏。

①Théo Charlier : Solo de concours (Schott版)

②Camille Saint-Saëns : Fantaisie en mi bémol (Alphonse Leduc版)

③Roger Boutry : Trompetunia (Alphonse Leduc版)

④André Chailieux : Morceau de concours (Alphonse Leduc版)

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※(2)の伴奏者は大学が用意する（伴奏譜の提出不要）。

■トロンボーン

(1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）

調性、音域は当日指定する。

(2) 次のトロンボーン課題またはバス・トロンボーン課題を選択すること。

●トロンボーン

①J. Rochut : Melodious Etudes for Trombone. Book 1. Edited by Alan Raph (C. Fischer) よりNo.8

②G. Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (G. コブラッシュ『60のエチュード(トロンボーン)』(全音楽譜)) よりNo.15, No.40

※繰り返しなし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

●バス・トロンボーン

- ①J. Rochut : Melodious Etudes for Trombone. Book 1. Edited by Alan Raph (C. Fischer) よりNo.1をオクターブ下で演奏すること。
- ②O. Blume : 36 Studies for Trombone with F Attachment (C. Fischer) よりNo.5, 25

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■チューバ

(1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）

調性、音域は当日指定する。

(2) 練習曲

以下の中から当日指定する。いずれも途中でカットする場合がある。

G. Kopprasch : 60 Selected Studies (R. King Music) No.10, 12, 16, 20, 23

M. Bordogni : 43 bel canto studies (R. King Music) No.1, 4, 7

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■ユーフォニアム

(1) 後藤文夫：無伴奏ユーフォニアムのための24のカプリスよりNo.14

（風の音ミュージックパブリッシング）

(2) 以下の4曲より1曲を選択し演奏。

①J.B.Arban : Variation on a Song "Vois-tu la neige qui brille (The Beautiful Snow) (「輝く雪」の歌による変奏曲) 前奏なし。(Arban's Complete Method 所収)

伴奏者使用楽譜はJ.B.アーバン『12の幻想曲とアリア』No. 5 (IRS Collection、全音楽譜)

②P.V.De la Nux : Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano (Southern Music Company)

③B.Appermont : The Green Hill (Beriato Music)

④Philip Sparke : Variation on an English Hymn Tune (Anglo Music)

※(1)(2)は暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※(1)(2)のいずれも途中でカットする場合がある。

※(2)の伴奏者は大学が用意する（伴奏譜の提出不要）。

打楽器

ティンパニ、小太鼓、マリンバのいずれかの課題で受験すること。

下記の専攻実技の課題を記載の順で演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■ティンパニ

- (1) ロール $pp \longleftarrow ff \longrightarrow pp$ (30秒以上) 音程は当日指定する。
- (2) R. Hochrainer : Etüden für Timpani. Heft 1 (Doblinger) のNo.19, 26, 34, 39, 43, 44より当日指定する。
- (3) 簡単な初見演奏
- (4) 小太鼓による2つ打ち（響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと）
- (5) マリンバによる2オクターヴの長音階と短音階。調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する。

■小太鼓

- (1) 2つ打ち、ロール $pp \longleftarrow ff \longrightarrow pp$ (30秒以上) 響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと。
- (2) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm のNo.3, 4, 12, 13, 30, 32より当日指定する。
- (3) 簡単な初見演奏
- (4) マリンバによる2オクターヴの長音階と短音階。調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する。

■マリンバ

- (1) 3オクターヴの長音階、短音階、分散和音。調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する。
- (2) M. Goldenberg : Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone (Alfred Music) の39 EtudesのV (5番), XV (15番), XVIII (18番), XIX (19番), XX (20番) より当日指定する。
※V (5番) は繰り返しなし
- (3) 自由曲（伴奏なし）
- (4) 簡単な初見演奏
- (5) 小太鼓による2つ打ち（響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと）

3 作曲指揮専攻

作曲「芸術音楽コース」

○入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜（A日程）】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験
詳細はp.13 [14] を参照のこと。

【一般選抜（B日程）】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音（30分） 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音・・・大譜表による四声体和声（密集）、8小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 副科実技（ピアノ）

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノンNo.39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノンNo.39の場合は、速度は♩=76程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72程度以上とする。

(2) J.S.バッハ『平均律クラヴィア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）

(3) 自由曲1曲（自作品は不可）

※繰り返しは任意。

※(2)(3) 計2曲で10分以内とする。作品番号、調性、楽章なども記入すること。

6. 専攻実技

- (1) 和声 (イ) 転調および非和声音を含むバス課題 (2時間)
(ロ) 転調および非和声音を含むソプラノ課題 (2時間)
- (2) 作曲 与えられた動機による楽曲の創作 (5時間)
※一般選抜 (B日程) では、電子ピアノ使用可。
- (3) 面接 10分程度 (作曲を志した動機等について質問します)

作曲「ミュージック・メディアコース」

○入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜（A日程）】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験
詳細はp.13 [14] を参照のこと。

【一般選抜（B日程）】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音（30分） 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和音聴音・・・高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 専攻実技

(1) 伴奏付け：譜面作成とそのピアノ演奏（1時間）

①与えられた旋律に対して「伴奏／コード付け」を行う。譜面は手書きで書いたものを提出する（譜面作成時、備え付けのキーボード使用可）。

②①で「伴奏／コード付け」した結果を、面接時にピアノで演奏する。

※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(2) 和声（2時間）

①転調を含むバス課題。

②簡単な転調および非和声音を含むソプラノ課題。

※①バス課題から着手のこと。試験開始後1時間で①の答案を回収する。

※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(3) 小論文（1時間）

当日出題される課題について、簡単な文章を書く。

(4) 面接とプレゼンテーション

①面接

作曲に対する意識、今後、作曲家となるべく努力する姿勢、意識を問う。また特別な音楽的能力を有する者は、面接でアピールすることができる。（注1参照のこと）

②ピアノ演奏

自由曲または自作曲のピアノ演奏。楽曲の選択は、クラシック、ポピュラー等ジャンルを問わない（ピアノ独奏のみ。伴奏用音源等は使用不可）。（注2参照のこと）

③伴奏付け（専攻実技課題（1））の実演

専攻実技課題（1）伴奏付けにおいて与えられた旋律に対して行った「伴奏／コード付け」をピアノで演奏する。

※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて「伴奏付け」の科目が認定された者は、本入試での「③伴奏付け（専攻実技課題(1)）の実演」の試験を免除する。

④自作曲の評価

自作曲のデモ音源、楽譜（スコア等）を持参し、面接時にアピールすること（注3参照のこと）

注1 面接について

アピールしたい受験者は、楽器演奏や音楽制作に携わった作品の映像（動画ファイル）を面接時に提出すること（ライブ、コンサート等の映像も可とする）。

ただし、提出できる映像は2本まで。各映像の長さは3分未満とする。

また、映像内で受験者本人を確認（本人の姿やクレジット表記）できるものとする。

動画ファイルの拡張子はmovまたはmp4のいずれかとし、USBメモリに保存して面接当日に持参すること。

《当日の楽器演奏を希望する場合》

ギター、ベース、ヴァイオリン、フルート等の楽器演奏を面接時に希望する場合は、楽器を持参すること。

ギターアンプ、ベースアンプは備え付けのものを使用する。演奏を希望する楽器名、楽曲名は曲目記入票に記入すること。

電子オルガン等、複数人での移動を必要とする大型楽器の持込みは不可とする。

その場合は動画ファイルを提出しアピールすること。

注2 ピアノ演奏について

①基本的なピアノ演奏能力を知ることが目的であるため、注意して楽曲を選ぶこと。曲名、作曲者名は、専攻別曲目記入票に詳しく正確に記入すること。

②自作曲のピアノ演奏を行う場合は、（4）④の自作曲の評価で提出する曲とは異なる作品にすること。

③暗譜で演奏すること。

注3 自作曲について

曲数は2曲までとし、各曲の長さは3分未満とする。楽曲のスタイルやジャンルは自由だが、デモ音源は試聴するための十分な状態を満たすこと。

《デモ音源、楽譜の提出について》

①デモ音源は、オーディオファイルで用意すること。オーディオファイルの拡張子はwav、aif、mp3のいずれかとし、USBメモリに保存して面接当日に持参すること。また複数曲の場合は、試聴する順に番号をファイル名の先頭に入れること。

（例：01_song.wav）

②楽譜（スコア等）に曲名、受験番号、氏名を記入の上、4部面接時に持参すること。簡易でもよいので製本をすること。視聴後、楽曲の部分的な演奏を指示する場合がある。その場合、基本的に使用する楽器はピアノとする。

○入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜（A日程）】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験
詳細はp.13 [14] を参照のこと。

【一般選抜（B日程）】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音（30分） 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音・・・大譜表による四声体和声（密集）、8小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 副科実技（ピアノ）

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノンNo.39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノンNo.39の場合は、速度は♩=76程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72程度以上とする。

(2) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）

(3) 古典派ソナタより任意の1曲（第1楽章または終楽章）

※繰り返しは任意。

※(2)(3) 計2曲で10分以内とする。作品番号、調性、楽章なども記入すること。

6. 専攻実技

- (1) 聴音（単旋律、二声および木管四重奏）
- (2) 新曲視唱（各種音部記号による。ただし、メゾ・ソプラノ、バリトン記号を除く）
- (3) 簡単な旋律のピアノ初見弾き歌い
- (4) スコアリーディング（2管編成程度の管弦楽曲）
- (5) 指揮実技
 - (イ) 2管編成程度の管弦楽曲の初見指揮（演奏は2台のピアノによる）
 - (ロ) モーツァルト：交響曲第35番二長調ペーレンライター版（演奏は2台のピアノとヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる）
 - (ハ) ベートーヴェン：劇音楽『エグモント』序曲 ※版は問わない（演奏は2台のピアノによる）
- ※(ロ)(ハ)は暗譜で演奏（指揮）すること。
- ※一般選抜（B日程）では、(ロ)の演奏は2台のピアノによる
- (6) 演奏実技（ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声楽不可）
 - ※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。
- (7) 和声（バス、ソプラノ課題「初級程度」1時間）
- (8) 小論文（1時間）
- (9) 口述試問

4 音楽文化教育専攻

○入学試験科目

1. 英語

【一般選抜（A日程）】

以下より1つ選択する。

（1）大学入学共通テスト。筆記およびリスニング。

（2）本学が行う試験（60分）

（3）資格試験

詳細はp.13 [14] を参照のこと。

【一般選抜（B日程）】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 選択科目

■一般選抜（A日程）は、以下の課題の（A）～（C）より2つ選択する。

■一般選抜（B日程）は、以下の課題の（A）～（C）より1つ選択する。

（A）楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

（B）新曲視唱：8小節程度の旋律を1曲

別室で1～2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

（C）聴音（30分）：旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和音聴音・・・高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 小論文（60分）

当日出題する課題について800字程度で論じる。

4. 口述試問

志望動機、将来の希望などとともに、試験において作成した論文の内容について問う。

5. 実技

以下から実技をひとつ選択する。

■声楽 自由曲 1曲（暗譜。伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出のこと）

■ピアノ 自由曲 5分程度（自作品は不可。複数曲可。暗譜）

■弦楽器 自由曲 5分程度（複数曲可。暗譜。伴奏なしで演奏すること）

※受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる

■管打楽器 自由曲 5分程度（複数曲可。暗譜の必要なし。伴奏なしで演奏すること。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可））

※受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる

5 ミュージック・リベラルアーツ専攻

○入学試験科目

1. 英語

■一般選抜（A日程）は、以下より1つ選択する。

- （1）大学入学共通テスト（筆記およびリスニング）
- （2）本学が行う試験（60分）
- （3）資格試験

詳細はp.13 [14] を参照のこと。

■一般選抜（B日程）は、上記（1）の大学入学共通テストは利用しない。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 面接

「英語」または「英語と日本語」で行う（試験当日、本人の希望を確認）

音楽に関する基礎知識を問う質問を含む。また、外国人留学生には簡単な日本語能力を問う質問をする。

3. 実技

声楽、ピアノ、弦楽器、管打楽器、作曲、創作、指揮、古楽器、邦楽器から実技をひとつ選択すること。

演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

【ピアノでの受験者のみ】

「対面式」と「非対面式（実技の動画審査およびオンライン面接）」から選択することが可能です。

非対面式を選択する場合、パソコン・スマートフォン・タブレットいずれかの機器が必要です。

※パソコンの場合は、カメラ・マイク・スピーカーが内蔵または付属されている機種を使用してください。

※イヤフォンまたはヘッドフォンを用意してください。

※曲目記入票記入の際は、総時間には曲間を含めず、各曲の演奏時間の合計時間を書くこと。

◇課題曲

■声楽

以下の課題（A）、（B）のいずれかを選択すること。

- （A）自由曲2曲（演奏の途中で打ち切る場合がある。暗譜）
- （B）声楽専攻声楽芸術の課題

■ピアノ

以下の課題（A）、（B）のいずれかを選択すること。

- （A）器楽専攻ピアノの課題
- （B）器楽専攻ピアノ演奏家コースの課題

※ミュージック・リベラルアーツ専攻（ピアノ演奏家コース）の受験結果により、ミュージック・リベラルアーツ専攻（ピアノ）に合格となる場合がある。

■弦楽器（受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる）

以下の課題（A）、（B）のいずれかを選択すること。

- （A）自由曲7-15分程度（複数曲可。暗譜。伴奏なし）
- （B）器楽専攻弦楽器の課題

■管打楽器（受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる）

以下の課題（A）、（B）のいずれかを選択すること。

（A）自由曲7-15分程度（複数曲可。暗譜の必要なし。伴奏なし）

※楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

（B）器楽専攻管打楽器の課題

■作曲

（1）与えられた動機による楽曲の創作（5時間）

※一般選抜（B日程）では、電子ピアノ使用可。

（2）楽器演奏（自由曲3分以上。自作曲不可。暗譜。演奏後に演奏や作曲についての簡単な質問をすることがある。）

※持ち込みができない楽器による演奏は認めない。ただし、ピアノについては、本学備え付けのものを使用可。

（3）創作課題に関する口述試問

■創作

（1）作品提出1曲ないし2曲（組曲は1曲とみなす）

※編成、演奏時間は任意。

※楽譜は、鮮明な自筆あるいはコンピュータ浄書とする（コピー可）。

※表紙に曲名、氏名を記入し、簡易に製本すること。

※譜面各ページの右上に氏名を必ず記入し、ページ番号を表記すること。

※出願書類と共に提出すること。ただし、出願書類に同封できない場合は別送可。

（2）楽器演奏（自由曲3分以上。自作曲不可。暗譜。演奏後に音楽についての簡単な質問をすることがある）

※持ち込みができない楽器による演奏は認めない。ただし、ピアノについては、本学備え付けのものを使用可。

（3）提出作品に関する口述試問

■指揮

以下の課題（A）、（B）のいずれかを選択すること。

（A）下記の試験課題

（1）聴音（単旋律、二声）

（2）新曲視唱

（3）指揮実技

モーツァルト：交響曲第35番二長調バーレンライター版（演奏は2台のピアノによる）

（4）演奏実技（ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声楽不可）

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

（5）和声（バス課題「初級程度」45分）

（6）小論文（英語または日本語60分）

（7）口述試問

（B）作曲指揮専攻指揮の課題

※小論文は、英語または日本語で解答可能。

■古楽器（リコーダー、リュート、チェンバロ、オルガン）

自由曲7-15分程度（オルガンはペダルなしでもよい）

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■邦楽器（箏（生田流）、長唄三味線、琵琶（鶴田流）、古典尺八）

自由曲5分以上（複数曲可。暗譜）

6 吹奏楽アカデミー専攻

○入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜（A日程）】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
 - (2) 本学が行う試験（英語・60分）
 - (3) 資格試験
- 詳細はp.13 [14] を参照のこと。

【一般選抜（B日程）】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 選択科目 以下の課題の（A）～（D）より1つを選択する。

（A）新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

（B）初見演奏 12小節程度の旋律を1曲

専攻実技時に1分間の予見、無伴奏で演奏する。試験順は、専攻実技 → 初見演奏 → 面接および口述試問、となる。

（C）聴音（30分） 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和音聴音・・・・・・高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

（D）副科実技（ピアノ）

※すべて暗譜で演奏すること。

（1）音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノンNo.39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノンNo.39の場合は、速度は♩＝76程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符＝72程度以上とする。

（2）自由曲：ソナチネ、ソナタ、バッハのインヴェンション程度の楽曲を1曲。ソナチネ、ソナタの場合はその任意の楽章を1つ。

※繰り返しは任意。

※抜粋の場合は、専攻別曲目記入票に楽章等を明記すること。作品番号、調性なども記入すること。

4. 面接および口述試問

5. 専攻実技

下記の専攻実技の課題を演奏すること。いずれも特殊管による演奏可。

演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

◇課題曲

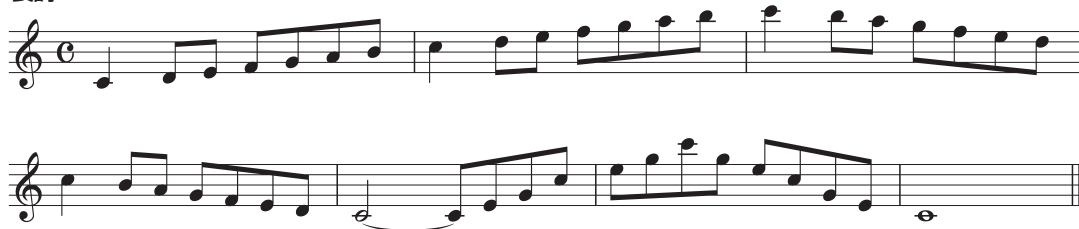
吹奏楽アカデミー木管楽器

■フルート

(1) 音階および分散和音

次の音型によって音階および分散和音を長調と短調（和声的）それぞれ1つずつ演奏すること。
調性、スラー等は任意。暗譜で演奏すること。

長調



短調



(2) 次の中から任意の一曲を選び演奏すること。

J.Andersen: 24 Studies. [またはEtudes.] Op.21 (J.アンデルセン『24の練習曲』作品21) より第4番, 第10番, 第24番

E.Koehler [またはKöhler]: 12 Medium Difficult Exercises. Op.33-2 (E.ケーラー『12の中級練習曲』作品33の2 [または『35の練習曲』作品33の第2巻]) より第5番, 第10番, 第12番

※版の指定なし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■オーボエ

(1) 音階

次のA、Bいずれかの音型によって長音階と短音階を演奏すること。調性、スラー等は任意。短音階は和声的または旋律的を任意選択。暗譜で演奏すること。

A例



B例



(2) F. W. Ferling: 48 Etudes, Op.31 (F. W. フェルリンク『48のエチュード』) より任意の奇数・偶数番号を1曲ずつ選択し2曲を演奏すること。

※版の指定なし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■クラリネット

⇒エス・クラリネット～バスクラリネットまでどの特殊管で受験してもよい。

(1) 音階

R. Eichler : Scales for Clarinet (国立音楽大学出版) より各調の1番をスラーで演奏すること。長調と短調をそれぞれ任意で1つずつ。繰り返しなし。暗譜で演奏すること。

(2) C. Rose : 32 Etudes (C. ローズ『32のエチュード』) より任意の奇数・偶数番号を1曲ずつ選択し2曲を演奏すること。

※(2) は版の指定なし。繰り返しは任意。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■ファゴット

(1) 音階

次の音型によって、長音階と短音階(和声的)を演奏すること。調性、スラー等は任意。暗譜で演奏すること。



(2) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op.8. Vol.2 (J. ヴァイセンボーン『50の練習曲』作品8第2巻) の No.1-15 より任意の2曲。

※版の指定なし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■サクソフォーン

⇒ソプラノ、アルト、テナー、バリトンのどの楽器で受験してもよい。

(1) 音階

次の音型によって、長音階と短音階(和声的)をスラーで演奏すること。調性は全調の中から任意。暗譜で演奏すること。繰り返しなし。

音階譜例



(2) F. W. Ferling : 48 études pour tous les saxophones

(F. W. フェルリンク『サクソフォンのための48の練習曲』[M.ミュールによる増補改訂版] (A. Leduc)) より任意の奇数番号1曲と任意の偶数番号1曲の計2曲を演奏すること。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

吹奏楽アカデミー金管楽器

金管楽器共通課題（音階および分散和音）

次の音型によって、長音階と短音階（和声的または旋律的）を演奏すること。
調性、音域、スラー等は任意。暗譜で演奏すること。

<高音部譜表での例>



<低音部譜表での例>



■ホルン

- (1) 共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch : Sixty Selected Studies for Horn (G. コブラッシュ『60のエチュード（ホルン）』より 任意の2曲

※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■トランペット

- (1) 共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch : Sixty Selected Studies for Trumpet (G. コブラッシュ『60のエチュード（トランペット）』より任意の2曲

※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■トロンボーン、バス・トロンボーン

- (1) 共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch : Sixty Selected Studies for Trombone (G. コブラッシュ『60のエチュード（トロンボーン）』より任意の2曲

※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※バス・トロンボーンで受験する場合は1オクターヴ下げて演奏してもよい。

■チューバ

- (1) 共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch: Sixty Selected Studies for Tuba (G. コブラッシュ『60のエチュード(チューバ)』)より任意の2曲
 - ※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。
 - ※使用する楽器の管の種類は問わない。

■ユーフォニアム

- (1) 共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch: Sixty Selected Studies for Trombone (G. コブラッシュ『60のエチュード(トロンボーン)』)より任意の2曲
 - ※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

吹奏楽アカデミー打楽器

- (1) 打楽器共通課題
 - ①鍵盤打楽器による2オクターヴの長音階と短音階。調性は調号3つまでの調から任意。音型は自由。ただし、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する。
 - ※楽器はシロフォン、マリンバ、ヴィブラフォンより選択すること。
 - ②小太鼓による2つ打ち（楽器は各自持参のこと）
- (2) 楽器別課題
 - 下記のいずれか1つを選択すること。

■ティンパニ

- R. Hochrainer: Etüden für Timpani. Heft 1 (Doblinger Music) の No.8, 9, 10 のうち、任意の2曲
 - ※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■小太鼓

- W. F. Ludwig: Collection Drum Solos (Ludwig Music) より The Connecticut Halftime
 - ※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■鍵盤打楽器

- M. Goldenberg: Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone (Alfred Music) の39 EtudesよりⅤ, Ⅶのどちらか1曲
 - ※(1) ①と同一楽器で演奏すること。
 - ※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

■コントラバス

(1) 音階および分散和音

次の楽譜を演奏すること。連指の指定なし。暗譜の必要なし。



(2) F. Simandl: 30 Etudes for the String Bass (C. Fischer) より任意の1曲、または任意の自由曲を1曲。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※オーケストラチューニング

※伴奏なし。

■ハープ

任意の自由曲1曲

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※伴奏なし。

7 ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

○入学試験科目

1. 選択科目

以下より1つを選択する。

(1) 大学入学共通テストの成績

大学入学共通テスト科目より任意の1科目選択。〔英語〕は筆記とリスニングの双方を課す)

(2) 本学が行う試験 (60分)

英語・数学 (大学入学共通テスト『数学Ⅰ, 数学A』、『数学Ⅱ, 数学B (ただし数学Bは「数列、統計的な推測」)』の出題範囲) より1科目選択。

(3) 資格試験

詳細はp.13 [14] を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 小論文 (60分)

当日出題する課題について800字程度で論じる。

※ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を第2志望で併願する場合は、小論文の試験を免除する。

3. 口述試問

志望動機、将来の希望などとともに、試験において作成した小論文の内容について問う。

入学者選抜試験における不正行為について

受験の際には、すべて試験監督の指示に従ってください。以下に該当する場合、不正行為とみなされます。

- (1) 出願の際に本学に提出した書類・資料等に偽造、虚偽の記載、剽窃が見つかった場合
- (2) 受験者以外の者が、受験者本人になりすまして試験を受けた場合

また、以下の行為をすると、不正行為とみなされる場合があります。

- カンニング (カンニングペーパーや参考書、他の受験者の答案を見ること、他の受験者から答えを教わること等) をすること。
- 使用を認められていない用具を使用すること。
- 試験開始の合図の前に問題冊子を開き、解答を始めること。
- 試験終了の合図の後に筆記用具や消しゴムを持ち続ける、または解答を続けること。
- 試験時間中に、他の受験者に答えを教えるなど、他の受験者を利する行為。
- 試験時間中に、他の受験者に迷惑となる行為。
- 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ウェアラブル端末(眼鏡型・腕時計型等)、イヤホン等を身につける、または作動させること。
- 試験期間中に、本学構内において入学者選抜試験に関する問題および解答用紙、試験室・控室等の会場、掲示物等を写真または動画で撮影する行為、またはそれらをSNS等インターネット上へ掲載する行為。
- 非対面式試験において、「同意書」に記載の内容に反する行為。
- 受験時の写真照合において、本人確認が困難となる程度の加工・修正を施した写真を用いてWEB出願登録を行うこと。
- その他、試験の公平性を損なう行為。

試験実施中に不正行為と思われる行為が認められた場合、試験監督が注意し、試験の中止や退室を指示することがあります。不正行為の疑いに対処した時間があっても、その受験者は、試験時間の延長を求めることはできません。

不正行為と認められた場合、それ以降の受験はできなくなり、当該年度における本学のすべての入学試験の結果を無効とします。また、入学検定料は返還しません。



編入学・転入学試験

- 1 編入学・転入学試験 募集専攻・募集人員
- 2 出願資格
- 3 他大学・短期大学単位認定範囲
- 4 編入学者・転入学者卒業要件
- 5 受験上・修学上の配慮を希望する志願者について
- 6 日程一覧
- 7 出願手続
- 8 編入学・転入学検定料
- 9 編入学・転入学試験
- 10 合格発表
- 11 編入学・転入学手続
- 12 学費その他の納入金
- 13 専攻別試験科目・配点

1 編入学・転入学試験 募集専攻・募集人員

〔1〕 編入学・転入学学年

2年次 および 3年次
ただし、音楽文化教育専攻、ミュージック・リベラルアーツ専攻、
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻は2年次のみ

〔2〕 募集人員

若干名

〔3〕 募集専攻・コース・楽器

募集専攻	コ ー ス ・ 楽 器
声 楽 専 攻	●声楽芸術コース
器 楽 専 攻	●ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン ●ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギター ●フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン ●ホルン、トランペット、トロンボーン、テューバ、ユーフォニアム ●打楽器
作 曲 指 揮 専 攻	●作曲「芸術音楽コース」
音 楽 文 化 教 育 専 攻	
ミュージック・リベラルアーツ専攻	
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	

2 出願資格

2年次および3年次編入学・転入学の共通事項

併願の受験および一般選抜との併願はできない。

2年次編入学・転入学

本学による事前の審査によって*、3年間で卒業が見込めるとされた者のうち、次のいずれかに該当している者

- (1) 3年次編入学・転入学出願資格のいずれかに該当する者
- (2) 4年制大学または短期大学に1年以上在学（見込の者を含む）し、教職・資格科目を除き30単位以上を修得（修得見込の者を含む）している者
- (3) 外国において相当年次の課程を修了（修了見込の者を含む）し、30単位以上を修得（修得見込の者を含む）している者

※上記に加え、外国籍を有する者は以下に該当していること（「永住者」は除く）。

- (4) 出願時に日本語能力試験（JLPT）でN2以上に合格している者、または日本留学試験（EJU）「日本語」（読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く）で200点以上を取得している者（ミュージック・リベラルアーツ専攻を除く）

※ミュージック・リベラルアーツ専攻志願者は、出願時に出願資格（4）の日本語能力の証明書を取得している必要はありませんが、日本の大学での授業や学生生活に十分な日本語能力は必要です。入学時までに、「日本語能力試験（JLPT）」N2以上、または日本留学試験（EJU）「日本語」（読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く）で200点以上の取得に努めること。

- (5) 出願時に、日本の大学に入学することが可能な在留資格（「留学」等）を有していない場合、4月入学に必要な在留資格（「留学」）の取得が入学時までに完了せず、日本への渡航が授業開始に間に合わない可能性があること、または4月入学後に在留手続きのため一時帰国が必要となり、欠席となり単位取得に影響する可能性があることをあらかじめ了承のうえで出願する者。

※ビザ取得の審査は法務省が行うため、不許可となった場合、大学は一切責任を負いません。

3年次編入学・転入学

本学による事前の審査によって*、2年間で卒業が見込めるとされた者のうち、次のいずれかに該当している者

- (1) 学士の学位を有する者

- (2) 4年制大学に2年以上在学（見込の者を含む）し、教職・資格科目を除き60単位以上を修得（修得見込の者を含む）している者
- (3) 短期大学を卒業した者、または卒業見込の者
- (4) 高等専門学校を卒業した者、または卒業見込の者
- (5) 修業年限2年以上で、かつ、総授業時間数1,700時間以上または62単位以上の専修学校専門課程を修了した者、または修了見込の者
- (6) 修業年限が2年以上、その他文部科学大臣が定める基準を満たす高等学校の専攻科を修了した者、または修了見込の者
- (7) 外国において相当年次の課程を修了（修了見込の者を含む）し、60単位以上を修得（修得見込の者を含む）している者

※上記に加え、外国籍を有する者は以下に該当していること（「永住者」は除く）。

- (8) 出願時に日本語能力試験（JLPT）でN2以上に合格している者、または日本留学試験（EJU）「日本語」（読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く）で200点以上を取得している者
- (9) 出願時に、日本の大学に入学することが可能な在留資格（「留学」等）を有していない場合、4月入学に必要な在留資格（留学）の取得が入学時まで完了せず、日本への渡航が授業開始に間に合わない可能性があること、または4月入学後に在留手続きのため一時帰国が必要となり、欠席となり単位取得に影響する可能性があることをあらかじめ了承のうえで出願する者。

※ビザ取得の審査は法務省が行うため、不許可となった場合、大学は一切責任を負いません。

*編入学・転入学希望者は2026年11月10日(火)～11月20日(金)までに下記の書類を本学中目黒・代官山キャンパス入試課に郵送にて送付すること。12月末までに、出願の可否をお知らせします。

- ・出願資格審査申請書（本学所定用紙）
- ・成績証明書
- ・在籍証明書または卒業証明書
- ・出願時に履修中の科目（単位）がある場合は履修登録科目証明書
- ・履修した科目の講義概要、シラバス等（履修した科目のシラバスがわかるように付箋等をつけてください。コピー可）

3 他大学・短期大学単位認定範囲

2年次編入学・転入学

本学の卒業要件に関わる科目を対象とし、総計44単位まで認定する。

※修得単位数によっては、3年間で卒業できない場合があります。

3年次編入学・転入学

本学の卒業要件に関わる科目を対象とし、総計88単位まで認定する。

※修得単位数によっては、2年間で卒業できない場合があります。

4 編入学者・転入学者卒業要件

編入学・転入学を許可された相当年次の入学者と同じ単位数

5 受験上・修学上の配慮を希望する志願者について

一般選抜該当ページを参照のこと。

6 日程一覧

	編入学・転入学試験	備考
出願資格審査申請期間	11月10日（火）～ 11月20日（金）[消印有効]	出願の可否をメールにてお知らせします。
出願期間	1月6日（水）～18日（月）[消印有効]	
試験期間	2月16日（火）～20日（土）	
合格発表	2月26日（金）15：00～ 2月28日（日）17：00	Web出願サイトにて発表します。
入学手続期間	2月27日（土）～3月5日（金）[消印有効]	

7 出願手続

(1) 出願の流れ

出願方法はWeb出願のみです。

本学ホームページの「入試案内（学部）」にある「出願ガイド」内の「出願情報の登録」より、下図の手順に沿って出願を行ってください。

※出願書類の郵送を終えて出願完了となりますのでご注意ください。

＜「出願ガイド」、「出願書類ダウンロード」などWeb出願に必要なページの掲載場所＞



STEP1

①Web出願にあたっての事前準備（詳しくは「出願ガイド」参照）

- ☐ インターネットに接続しているパソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかの機器
- ☐ メールアドレス

各キャリアのメールアドレスを使用する場合は、ドメイン「@contact.mescius.com」「@sbpayment.jp」「@tokyo-ondai.ac.jp」からのメール受信ができるように設定を行ってください。入学試験用に新たに作成される場合はフリーメールアドレス（@yahoo.co.jpや@gmail.com等）の取得を推奨します。

- ☐ プリンター※
- ☐ PDF表示・印刷ソフトウェア
- ☐ 本人写真（カラー写真データ）

※自宅にプリンターがない場合、コンビニエンスストア等のマルチコピー機を使用してください。詳しい使用方法是「出願ガイド」のSTEP1事前準備 1. プリンターの「印刷方法のご確認」を参照してください。

②「出願ガイド」からユーザー登録を行う

同サイト内の「出願情報の登録」の「Web出願サイトはこちら」からWebサイトにアクセスし、「初めての方はこちら」からユーザー登録を行ってください。

※外国籍の方はパスポート、在留カードあるいは住民票に記載の氏名を姓 (Family Name) 名 (First Name) の順にアルファベットで入力してください(漢字は不可)。ただし、在留カードあるいは住民票の氏名表記が漢字のみの場合は、漢字での入力も可能です。

フリガナについては、通常使用する読みをカタカナで入力してください。

※本学受験講習会で登録をしている方および昨年度以前メールアドレス登録画面で「□来年度もこのメールアドレスを利用する」のチェックを入れた方は再登録不要です。以前登録したメールアドレスとパスワードでログインしてください。

③出願書類を確認・準備する

募集要項に記載されている出願に必要な書類を確認・準備してください。

STEP2

「出願ガイド」からWeb出願サイトにログインし、出願登録を行う

募集要項、「出願ガイド」を確認してから、同サイト内の「Web出願サイトはこちら」にアクセスし、STEP1で登録を行ったメールアドレスとパスワードでログイン後、「出願」から出願登録を行ってください。

(「出願ガイド」：<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/>)

STEP3

入学検定料のお支払い

「コンビニエンスストア」、「クレジットカード」、「Pay-easy」で出願期間中に検定料をお支払いください。
※検定料のほかに支払手数料が必要です。

STEP4

出願書類の印刷・記入および出願書類郵送

- ①Web出願サイトから志願票・宛名ラベルをダウンロードし、ページの拡大縮小はせずにA4サイズで印刷してください。
- ②本学ホームページ「入試案内（学部）」の「出願書類ダウンロード」から、受験する入学試験の必要書類を印刷・記入してください。提出前に必ず「出願書類チェックリスト」を使用して、出願書類がすべて揃っているか確認し、他の書類と共に提出してください。
（「出願書類ダウンロード」：<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/examinee/exam>）
- ③レターパックライトを使用して、表面に①で印刷した宛名ラベルを貼り、出願書類を郵送してください。
レターパックライトはポスト投函できますが、出願期限最終日に郵送する場合は、郵便局の窓口から出すことを推奨します。

郵送をもって出願完了となります。

※海外から日本への郵便到着に不安がある方は、事前に提出書類のPDFをメール添付やファイル送信サービスにて本募集要項最終ページ記載の「問い合わせ先」のメールアドレスに送付することができます。ただし、PDFのメール送付だけでは、出願受付はできませんので必ず出願期間内に郵送してください。

STEP5

受験票の印刷

東京音楽大学から「受験票印刷のお知らせメール」*が届いたら、受験票の記載事項が志願票に入力した内容と一致しているか確認し、メールの案内に従って「受験票」を印刷してください。

試験日程詳細は別途メールにて送信します。内容をご確認の上、試験会場にお越しください。

受験票は、試験当日持参してください。

※メールが届かない場合は、Web出願サイトにログインし「受験票印刷」から印刷してください。

(2)出願書類一覧

以下の該当する書類を一括して、宛名ラベルを貼付けの上、「レターパックライト」で郵送してください。なお、以下の書類は「A.Web 出願サイト」または「B.出願書類ダウンロード」よりダウンロードし印刷してください。

（「出願ガイド」内「Web 出願サイトはこちら」からアクセス） A.Web出願サイト（ユーザー登録、出願情報の登録、志願票・宛名ラベル印刷） https://lsg.mescius.com/tokyo-ondai/App/Account/login		
B.出願書類ダウンロード https://www.tokyo-ondai.ac.jp/examinee/exam		

出願書類			注意事項
[1]	志願票	上記AのURLから印刷してください	検定料支払い完了後に印刷してください。 （拡大・縮小せずA4で印刷） ※ カラー印刷してください。
[2]	宛名ラベル		日本国内から書類を発送する場合はレターパックに貼り付けてください。 （拡大・縮小せずA4で印刷） ※カラー印刷してください。
[3]	曲目記入票「専攻実技」	上記BのURLから編入学・転入学の様式を印刷してください	声楽専攻、器楽専攻、ミュージック・リベラルアーツ専攻は提出してください。
[4]	曲目記入票「副科実技（ピアノ）」		声楽専攻（声楽芸術コース）、器楽専攻（オルガン、弦楽器、管打楽器）、作曲指揮専攻（作曲「芸術音楽コース」）は提出してください。
[5]	出願書類チェックリスト		出願書類を郵送する前に各書類が揃っているかチェックし、他の書類と共に提出してください。

〔6〕 戸籍抄本（該当者のみ）

改姓等により各種証明書の氏名が出願時の氏名と異なる場合、戸籍抄本を提出してください。

〔7〕 伴奏用楽譜（以下の①～②の志願者のみ）

①器楽専攻（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）の自由曲

②ミュージック・リベラルアーツ専攻のうち、声楽（A）（B）課題、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの（B）課題

※p.12「〔12〕 伴奏用楽譜」を参照のこと。

〔8〕 創作曲楽譜（以下の①～②の志願者のみ）

①器楽専攻（ピアノ・創作コース）

②ミュージック・リベラルアーツ専攻（創作）

※p.13「〔13〕 創作曲楽譜」を参照のこと。

〔9〕 英語資格・検定試験証明書の原本（ミュージック・リベラルアーツ専攻資格試験選択者のみ）

※p.13「〔14〕 英語資格・検定試験証明書」を参照のこと。

〔10〕 認定試験（楽典・聴音・新曲視唱）認定証のコピー

※本学受験講習会にて実施予定の認定試験で認定された者は、認定証のコピーを提出することにより当該科目の試験を免除します。

〔11〕 日本語能力の証明書（外国籍志願者の該当者のみ）

該当者は、日本語能力の証明書を提出してください。

※ミュージック・リベラルアーツ専攻志願者は以下の日本語能力の証明書を取得している場合のみご提出ください。

①日本語能力試験（JLPT）の場合は、日本語能力試験N1またはN2の「認定結果及び成績に関する証明書」の原本を提出してください。

※「日本語能力認定書」の提出は必要ありません。

※日本語能力試験合格証明書の発行が出願期間に間に合わない場合、合格したことがわかるもの（合格画面のスクリーンショット等）の画面を原本の代わりに印刷し、原本をいつまでに提出できるかメモに書いて貼付け、他の出願書類と一緒に郵送にて提出してください。原本は別途郵送してください。

②日本留学試験（EJU）の場合は、受験票のコピーを提出してください。

※成績は、有効期間以内（試験日が過去2年以内）、かつ出願期間最終日までに確認ができるものを有効とします。

〔12〕 日本語教育機関の成績証明書・出席証明書（外国籍志願者の該当者のみ）

日本国内の日本語教育機関（日本語学校、留学生別科、専門学校等）に在籍中または修了した方は、当該教育機関が発行する成績証明書および出席状況証明書の原本を提出してください。

※複数の日本語教育機関に在籍または修了した方は、在籍・修了したすべての教育機関が発行する成績証明書および出席状況証明書の原本を提出してください。

※証明書は3か月以内に発行されたものに限りです。

〔13〕 在留カードのコピーまたは住民票（日本国内在住の外国籍志願者のみ）

※在留カードのコピーを提出する場合は、裏面に記載事項がなくても、必ず表・裏両面をA4サイズの用紙にコピーしてください。

※住民票を提出する場合は、在留資格・在留期間・在留期間満了日の記載を含むもので、出願時の3か月以内に発行されたものを提出してください。

〔14〕 パスポートのコピー（日本国外在住の外国籍志願者のみ）

※氏名・生年月日・パスポート番号・写真・有効期限のページをA4サイズの用紙にコピーして提出してください。ビザのページではありません。

8 編入学・転入学検定料

編入学・転入学試験の出願期間内にWeb出願サイトから決済手続きをしてください。お支払い完了後に決済完了メールが送信されます。

(注意)納入済みの編入学・転入学検定料についてはいかなる理由があっても返還しません。

募集専攻	コース・楽器	検定料
声楽専攻	●声楽芸術コース	38,000円
器楽専攻	●ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン	
	●ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギター	
	●フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、 ●ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム	
	●打楽器	
作曲指揮専攻	●作曲「芸術音楽コース」	20,000円
音楽文化教育専攻		
ミュージック・リベラルアーツ専攻		
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻		

9 編入学・転入学試験

[1] 試験期間

■ 2027年度試験日程(予定)

p.25の一般選抜(A日程)の試験日程を参照してください。

[2] 試験場

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス(東京都目黒区上目黒1-9-1)
東京音楽大学 池袋キャンパス(東京都豊島区南池袋3-4-5)

[3] 練習室について

入試期間中、受験者はキャンパスの練習室を無料で利用することができます。各自の専攻実技試験終了後は使用できません。予約方法等の詳細は、受付時に配付する資料を参照してください。

[4] 伴奏者の入構について

伴奏者の入構には志願者の受験票のコピーを持参してください。伴奏者は試験当日のみ入構可能です。入構から退出まで志願者とすべて行動をともにし、係員の指示に従ってください。

※伴奏者は、試験期間中に携帯電話、スマートフォン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ウェアブル端末(腕時計型等)を身につけたり、作動させたりすることはできません。「入学者選抜試験における不正行為について」をご参照ください。

※楽譜を使用する場合は、紙のものををご用意ください(電子楽譜は使用不可)。

[5] 試験当日に持参するもの

①東京音楽大学編入学・転入学試験受験票

②筆記用具

③必要な楽器、スタンド等

※コントラバス、ハープ、チューバ、ティンパニ、鍵盤打楽器以外の貸出しはしません。

④昼食(学生レストランの営業については、直前のお知らせをご確認ください。)

⑤時計

※辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。

※携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末は使用できません。

10 合格発表

合否は、Web出願サイトにて発表します。

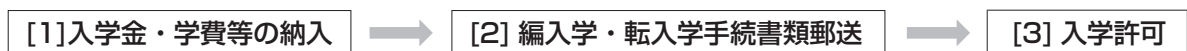
電話による問い合わせには応じません。

合格者には、出願時に登録した住所に編入学・転入学手続書類を郵送します。

登録した住所以外に郵送を希望する場合は、合格発表期間前に入試課へご連絡ください。

11 編入学・転入学手続

編入学・転入学手続の流れは以下のとおりです。



【1】 入学金・学費等の納入・期間

2月27日(土)～3月5日(金)までに入学金・学費等を納入するとともに、下記書類を入試課へ簡易書留またはレターパックにて郵送してください。最終日の消印有効です。

※入学金・学費等の納入期日は、必ず大学の口座に入金される日であること。

※上記の期間内に手続を完了しない者は、入学の意志がないものとして合格を取り消します。

【2】 編入学・転入学手続に必要な書類

①誓約書・個人情報の取扱いに関する同意書（本学所定の用紙）

②住民票または住民票記載事項証明書（3か月以内のもの）

③卒業証明書もしくは退学証明書

④最終学歴の入った成績証明書

⑤学生証用写真

⑥その他本学が提出を指示したもの

※詳細は編入学・転入学手続書類に同封される案内をご確認ください。

※入学までに大学編入学・転入学資格を満たせなかった場合は、合格または入学を取り消します。

※転入学志願者については、在籍していた大学等を除籍された場合、合格または入学を取り消します。

※提出された書類の記載事項に虚偽が判明した場合、合格または入学を取り消します。

【3】 編入学・転入学許可

手続を完了した者には、編入学・転入学許可書を交付します。

【4】 編入学・転入学辞退

入学を辞退する場合は、3月30日（火）11：30までに入試課に申し出てください。なお、納入済みの入学金はいかなる理由があっても返還しません。手続方法の詳細は、編入学・転入学手続書類に同封される案内をご確認ください。

12 学費その他の納入金

入学相当年度の学費等を納入する。

本学の学費については、以下のリンクをご覧ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/about/expenses>



学費および学費の取り扱いは、今後変更となる場合があります。

モバイルPC必携化について（対象：ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を除く全専攻の方）

本学では一部の授業でPCが必須になるため、個人所有のモバイルPCを大学の授業等で利用するBYOD（Bring Your Own Device:PCの必携化）を実施しており、ご自身でPCと自宅のネットワーク環境をご用意いただく必要があります。なお、求められるスペック等については入学後に各専攻でご案内いたしますので、入学前に購入を急ぐ必要はありません。

13 専攻別試験科目・配点

2027年度一般選抜（A日程）入学試験要項の各専攻の入学試験科目の項を参照のこと。併願不可。

試験科目		資格		編入学・転入学試験										備考
		英語	英語	専攻別実技試験	論文課題	面接・口述試問 (注2)	副科実技 (ピアノ)	コルユーブンゲン	新曲視唱 (注3)	聴音(和音・旋律) (注3)	聴音(四声体 和声・旋律) (注3)	楽典 (注3)	創作	
専攻・コース名	配点	(注1)	100点				各50点						ABC (3段階)	
声楽	声楽芸術コース			○			○	○	選択	選択		○		聴音・新曲視唱より1科目選択
器楽	ピアノ、ピアノ演奏家コース			○					○		○	○		
	ピアノ・創作コース			○					○		○	○	○	専攻別実技試験はピアノ・創作コースのピアノ課題
	チェンバロ			○					○		○	○		
	オルガン			○			○		○		○	○		
	弦・管・打楽器			○			○		○	○		○		
作曲「芸術音楽コース」				○			○		○		○	○		専攻別実技試験に面接を含む
音楽文化教育					○	○								
ミュージック・リベラルアーツ		選択	選択	○		○								本学が行う英語試験・英語資格または検定試験証明書の提出より1つ選択
ミュージックビジネス・テクノロジー					○	○								

(注1) 文部科学省が公表したCEFRとの対照表に基づき、本学独自に換算する。

(注2) 面接・口述試問の内容は専攻によって異なる。

(注3) 今年度本学受験講習会にて実施の認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

専攻別課題

[1] 声楽専攻（声楽芸術コース）

歌曲、オペラ・アリア、オラトリオ・アリアより任意の2曲（演奏時間は曲間を含め7分程度）

※歌詞は原語で歌うこと。

※アリアは原調で歌うこと。

※ミュージカルナンバー不可

※暗譜で演奏すること。伴奏者を同伴すること。伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

[2] 器楽専攻（ピアノ、ピアノ・創作コース）

2027年度一般選抜（A日程）入学試験課題による。

[3] 器楽専攻（ピアノ演奏家コース）

2027年度一般選抜（A日程）入学試験課題による。

※ピアノ演奏家コースの受験結果により、器楽専攻（ピアノ）に合格となる場合がある。

[4] 器楽専攻（チェンバロ）

2つ以上の異なる様式による作品を30分程度用意する。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※楽器は二段鍵盤チェンバロ（音域FF～f3、8' 8" 4、a1=415）

[5] 器楽専攻（オルガン）

2つ以上の異なる様式による作品を30分程度用意する。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。

※アシスタントの要、不要を専攻別曲目記入票に記入すること。

※試験日以前に、レジストレーションのための若干の練習時間を与える。

〔6〕 器楽専攻（弦楽器）

ヴァイオリン	2027年度一般選抜（A日程）入学試験課題による ※伴奏が必要な楽器は、大学が伴奏者を用意する。
ヴィオラ	
チェロ	
コントラバス	
ハープ	
クラシックギター	

〔7〕 器楽専攻（管・打楽器）

フルート	2027年度一般選抜（A日程）入学試験課題および10分程度の自由曲 ※ただし、 ・マリンバ受験に限っては、2027年度一般選抜（A日程）入学試験課題（1）、（2）、（4）、（5）と10分程度の自由曲 ・ティンパニ、小太鼓受験の自由曲は複数曲（合計10分程度）でも可とする。 ※伴奏が必要な楽器は、課題曲、自由曲とも伴奏者を同伴すること。 ※楽譜を使用する場合は、受験者、伴奏者いずれも、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。 ※曲目記入票には課題曲を含め、すべての曲を記入すること。
オーボエ	
クラリネット	
ファゴット	
サクソフォーン	
ホルン	
トランペット	
トロンボーン	
テューバ	
ユーフォニアム	
打楽器	

〔8〕 作曲指揮専攻（作曲「芸術音楽コース」）

2年次編入学・転入学（1）作品提出

①ピアノ独奏曲 ②2重奏曲または3重奏曲
出願書類と共に提出すること。

（2）面接

3年次編入学・転入学（1）作品提出

①2重奏曲または3重奏曲 ②4人以上の編成による任意の楽曲
出願書類と共に提出すること。

（2）面接

〔9〕 音楽文化教育専攻（2年次のみ）

（1）論文課題（90分）

当日出題する課題について1200～1600字程度で論じる。

（2）口述試問

志望動機、将来の希望などとともに、試験において作成した論文の内容について問う。

〔10〕 ミュージック・リベラルアーツ専攻（2年次のみ）

（1）英語

以下より1つ選択する。

①本学が行う試験（60分）

②資格試験

詳細はp.13〔14〕を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

（2）面接「日本語および英語」または「英語」を選択（試験当日、本人の希望を確認）

※音楽に関する基礎知識を問う質問を含む。また、外国人留学生には簡単な日本語能力を問う質問をする。

（3）専攻実技試験

2027年度一般選抜（A日程）入学試験課題による。

〔11〕 ミュージックビジネス・テクノロジー専攻（2年次のみ）

（1）論文課題（90分）

当日出題する課題について1200～1600字程度で論じる。

（2）口述試問

志望動機、将来の希望などとともに、試験において作成した論文の内容について問う。

専攻別曲目記入票 記入方法

記入上の注意

- ① 演奏する曲目、作曲者、調性、作品番号、楽章等について該当する欄に詳しく記入してください。
- ② 作品番号は、「Op.30 No.2」のように明確に、漏れの無いよう記入してください。
- ③ 楽章等の記入は、「第1楽章」「第2楽章」と「第」を入れて記入してください。
- ④ 曲目等の記入は、特に指定がなければ、邦語、原語どちらでも構いません。
- ⑤ ピアノ自由曲で一部省略する場合は、その箇所を記入してください。
- ⑥ 書き損じた場合は、二重線を引き、空いている場所書き直してください。修正テープ不可。
- ⑦ 出願後は、受験曲名、調の変更（訂正）は認めないので、間違いのないように正確に記入してください。
- ⑧ 曲目記入票に記入された事項（作曲者、曲目、調性、平均律巻名、楽章等）が試験で演奏したものと異なる場合、原則として失格になりますので注意してください

＜記入例＞

課題	作曲者名	曲目	調性	作品番号	楽章等
(2)	Clementi	Sonatina	本長調 ハ長調	Op.36 No.1	第1楽章

「第」を入れて記入してください。

作品番号は明確に、もれのないように記入してください。

書き損じた場合は、二重線を引き、空いているところに記入してください。修正テープ不可。

特に指定がなければ、邦語、原語どちらでも構いません。

＜非対面式記入例＞

自由曲	作曲者名	曲目等	演奏時間			
	ベートーヴェン	ソナタ 第 1 番 ヘ短調 op. 2 no. 1	(分)	(秒)		
			第1楽章	演奏開始時間	00	03
				演奏時間	04	00
			第2楽章	演奏開始時間	04	20
				演奏時間	05	30
	ショパン	練習曲 ハ長調 op. 10 no. 1	演奏開始時間	10	00	
			演奏時間	02	00	
	ドビュッシー	前奏曲集 第 1 集				
		デルフィの舞姫たち	演奏開始時間	12	10	
			演奏時間	03	00	
自由曲演奏時間合計			14 (分)	30 (秒)		

演奏開始時間は動画上でそれぞれの曲を演奏し始めた時間を記入してください。

※出願書類を郵送する時点で演奏時間、演奏開始時間を記入できない場合は、曲目記入票のコピーに演奏開始時間を記入したものを後から郵送してください（動画提出締切日翌日の消印有効。郵送は普通郵便可）。

「第」を入れて記入してください。

漏れのないように記入してください。

＜弦楽器記入例＞

課題	作曲者	曲目	番号	楽章	調性	作品番号
(1)	C.フレッシュ	スケール システム	第5,6,7,8番		二長調	
(2)	N.パガニーニ	24のカプリスより	第16番		ト短調	Op.1
(3)	W.A.モーツァルト	協奏曲	第5番	第1楽章	イ長調	K.219

- ・上記を参考に、日本語表記優先で記入してください。例えば、Concertoは協奏曲、Sonata（Sonate）はソナタとします。
- ・数字はすべてアラビア数字とします。

問い合わせ内容	担当課	連絡先(TEL)
入学試験関係全般	入試課	03-6455-2754
学費	財務課	03-6455-2747
学生寮(女子)・奨学金	学生支援課	03-6455-2756
カリキュラム	教務課(学科実技係)	03-6455-2750
実技レッスン	教務課(レッスン係)	03-6455-2751

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/>

東京音楽大学

〒153-8622 東京都目黒区上目黒1-9-1

ホームページアドレス <https://www.tokyo-ondai.ac.jp/>

問い合わせ先：03-6455-2754 (TEL) 日・祝日除く 9:00～17:00

03-6455-2774 (FAX)

nyushi@tokyo-ondai.ac.jp (メール)

中目黒・代官山キャンパス

私鉄

東急東横線「代官山駅」正面口より徒歩約5分
東急東横線「中目黒駅」正面改札より徒歩約5分

地下鉄

日比谷線「中目黒駅」正面改札より徒歩約5分

J R

「恵比寿駅」西口より徒歩約14分

池袋キャンパス

地下鉄

副都心線「雑司が谷駅」より徒歩約5分
丸ノ内線・有楽町線「池袋駅」より徒歩約15分
有楽町線「東池袋駅」より徒歩約15分

J R

「池袋駅」東口または「目白駅」より徒歩約15分

私鉄

西武池袋線・東武東上線「池袋駅」より徒歩約15分

バス

「南池袋一丁目」より徒歩約3分

都鉄

都電荒川線「鬼子母神前停留場」より徒歩約5分

〈アクセス〉

